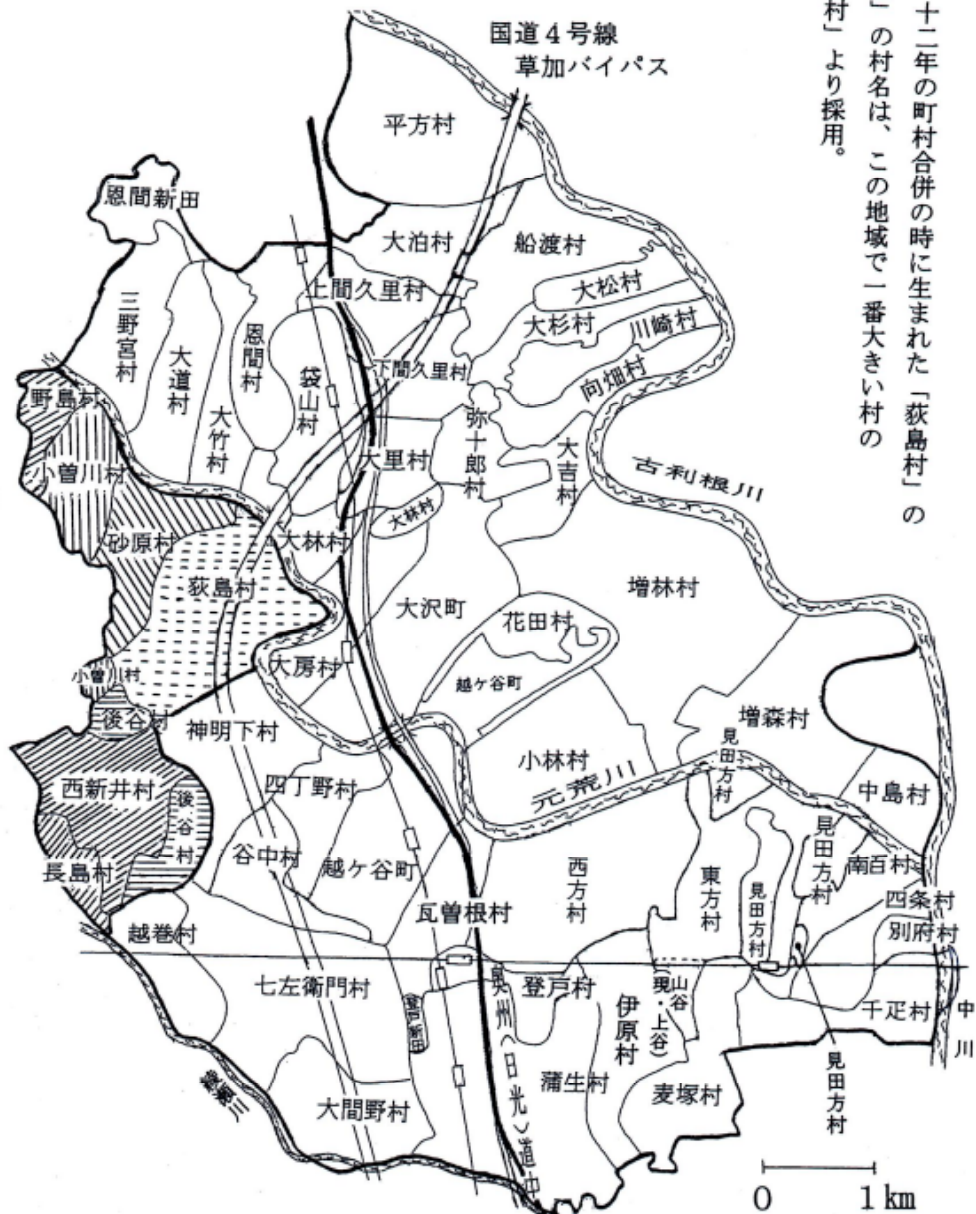


荻島地区
石 仏

おぎしま うしろや にしあらい ながしま
荻島村・後谷村・西新井村・長島村

明治二十二年の町村合併の時に生まれた「荻島村」の「荻島」の村名は、この地域で一番大きい村の「荻島村」より採用。



加藤幸一

荻島地区の石仏案内図



野島村

- | | |
|------------------|---------|
| (1) 浄山寺 | No. 1~3 |
| (2) 久伊豆神社 | No. 4・5 |
| (3) 野口家[野島180]路傍 | No. 6 |

小曽川村

- | | |
|---------------------|-----------|
| ① 久伊豆神社 | No. 1~3 |
| ② 慈眼寺跡墓地 | No. 4~10 |
| ③ 田口家[小曽川330]路傍 | No. 11 |
| ④ 中島家[小曽川266]そば共同墓地 | No. 12 |
| ⑤ 中島家[小曽川233-1]路傍 | No. 13 |
| ⑥ 藤井家[小曽川421]そば墓地 | No. 14・15 |

砂原村

- | | |
|----------------------|----------|
| (1) 元荒川土手道 | No. 1 |
| (2) 松沢家[砂原850-2]そば路傍 | No. 2・3 |
| (3) 平野家[砂原775]路傍 | No. 4 |
| (4) 久伊豆神社 | No. 5~8 |
| (5) 聖勸院跡墓地 | No. 9~11 |
| (6) 角堂坊墓地 | No. 12 |
| (7) 平野家邸内[砂原 1245] | No. 13 |

荻島村

- | | |
|---------------------|--------------|
| ① 会田家[南荻島86]個人墓地 | No. 1 |
| ② 会田家[南荻島87]路傍 | No. 2 |
| ③ 稲荷神社参道入口 | No. 3 |
| ④ 稲荷神社 | No. 4~8 |
| ⑤ 中島家[南荻島210]そば出津地 | No. 9~11 |
| ⑥ 大熊家[南荻島3856]土手道路傍 | No. 12 |
| ⑦ 玉泉院 | No. 13~15・43 |
| ⑧ 会田家[南荻島365] | No. 16 |
| ⑨ 野合自治会館 | No. 17~24 |
| ⑩ 野中自治会館 | No. 25~31 |
| ⑪ 中組集会所 | No. 32~36 |
| ⑫ 鈴木家[南荻島1382]路傍 | No. 37 |
| ⑬ 根岸家[南荻島1145]西側路傍 | No. 38 |
| ⑭ 「ひやみず」共同墓地 | No. 39~42 |

後谷村

- | | |
|-------------|----------|
| (1) 根郷の稲荷神社 | No. 1 |
| (2) 根郷自治会館 | No. 2~7 |
| (3) 北前の稲荷神社 | No. 8~10 |

西新井村

- | | |
|--------------------|-----------|
| ① 大石橋北側の山王社 | No. 1~3 |
| ② 西教院 | No. 4~15 |
| ③ 田村家[西新井690]道路反対側 | No. 16 |
| ④ 西組自治会館 | No. 17~19 |
| ⑤ 石神井神社 | No. 20~23 |
| ⑥ 西前自治会館 | No. 24 |

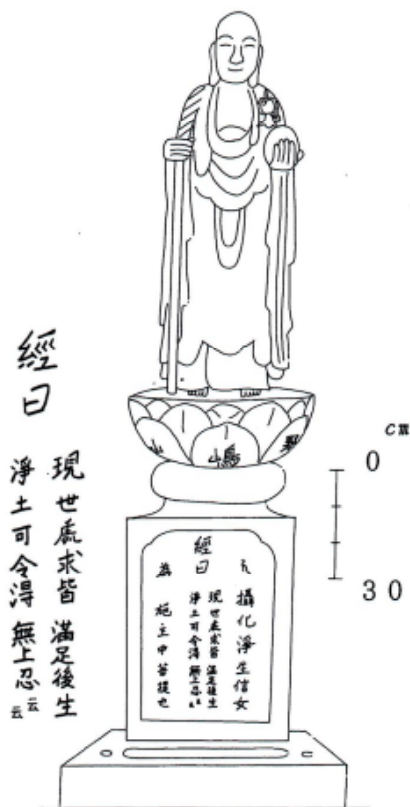
長島村

- | | |
|------------------|---------|
| (1) 長島自治会館 | No. 1~4 |
| (2) 久保家[長島2-4]路傍 | No. 5 |

1. 野島

丸彫り地蔵菩薩像

浄山寺

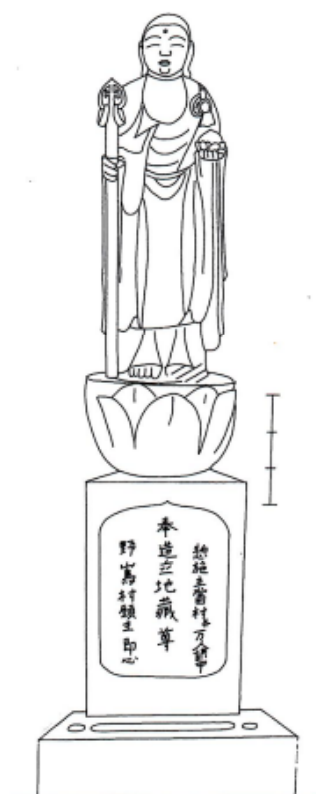


天保14 (1843)

2. 野島

丸彫り地蔵菩薩像

浄山寺

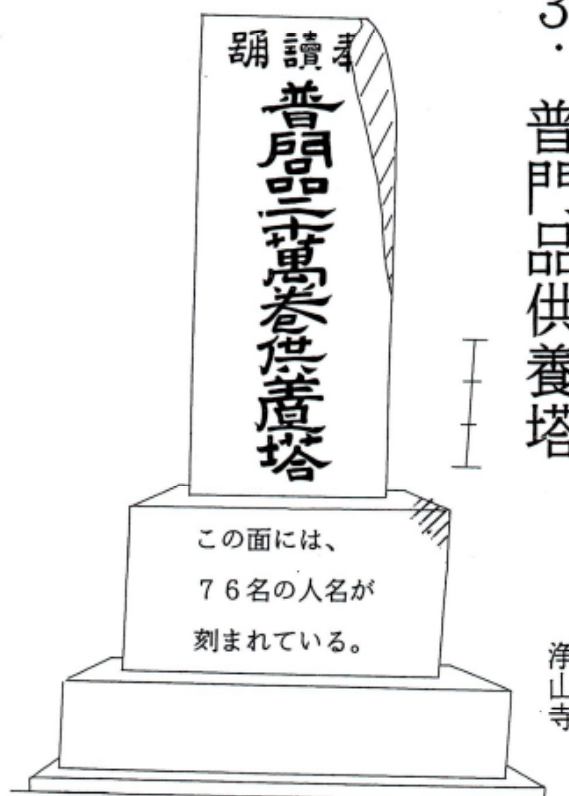


享保18 (1733)

3. 野島

普門品供養塔

浄山寺

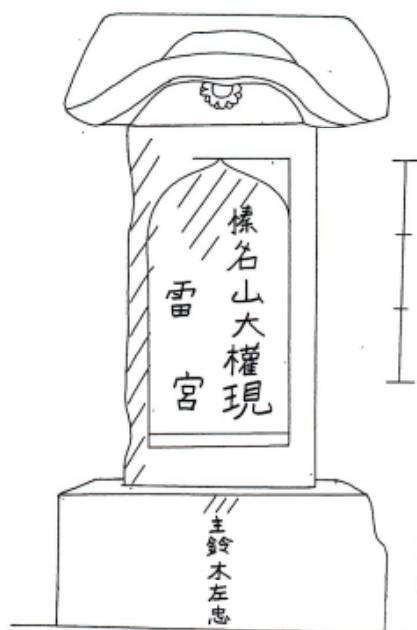


文化10 (1813)

4. 野島

「榛名山権現・雷電宮」文字塔

久伊豆神社



天保9 (1839)

5 野島

青面金剛像庚申塔

久伊豆神社

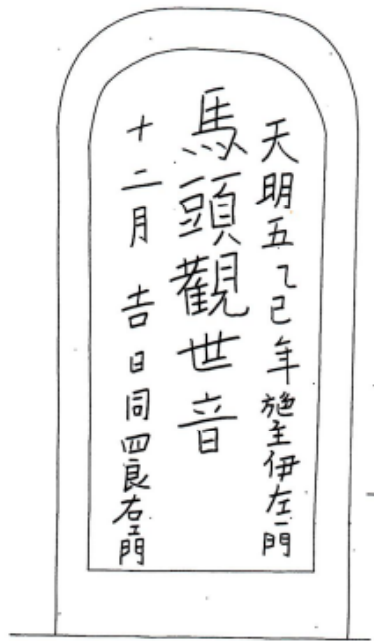


正徳3 (1713)

6 野島

「馬頭観音」文字塔

野口家「野島一八〇」路傍

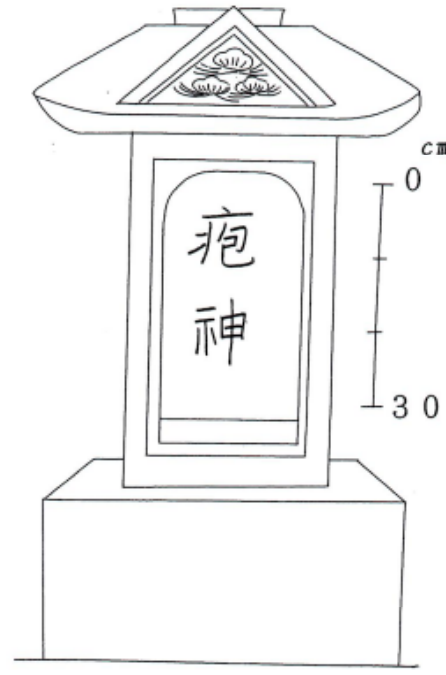


天明5 (1785)

1 小曾川

疱神 ほうじん
供養塔

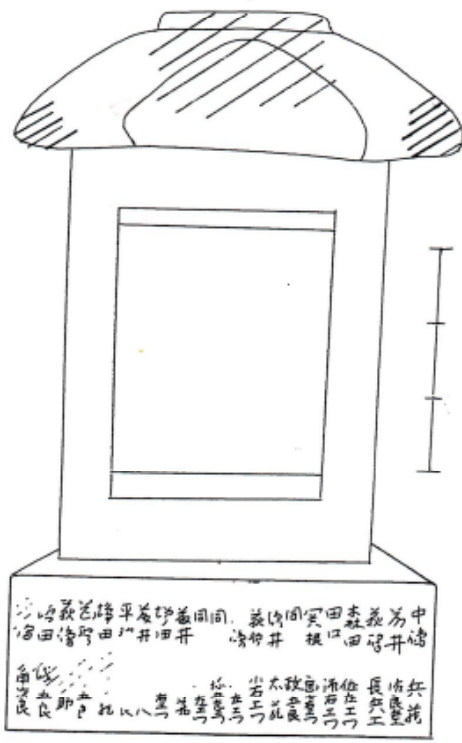
久伊豆神社



2 小曾川

御嶽山 みたけさん
供養塔

久伊豆神社

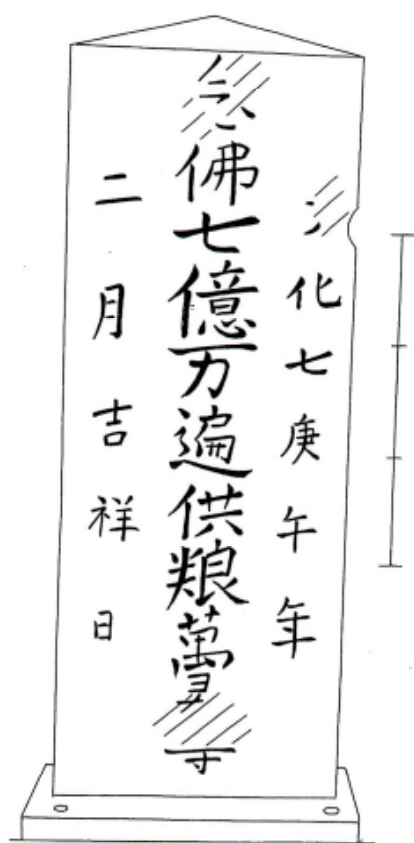


文久2 (1862)

3・小曾川「金毘羅権現」文字塔久伊豆神社



5・小曾川名号塔



慈眼寺跡

文化7 (1810)

4・小曾川

地蔵菩薩像付き百堂巡礼塔

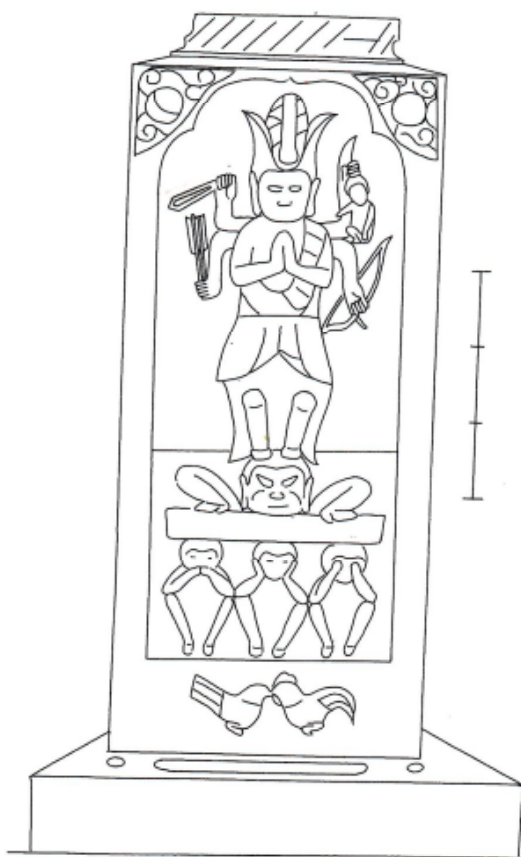


慈眼寺跡

寛文2 (1662)

6・小曾川

青面金剛像庚申塔



慈眼寺跡

正徳4 (1714)

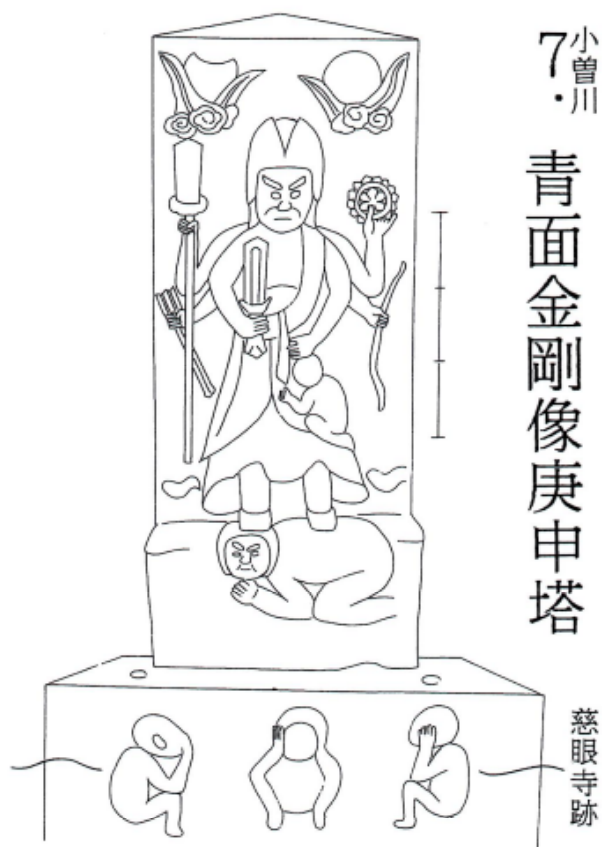


文政9 (1826)

8. 小曾川

如意輪観音菩薩像

慈眼寺跡



寛政11 (1799)

7. 小曾川

青面金剛像庚申塔

慈眼寺跡

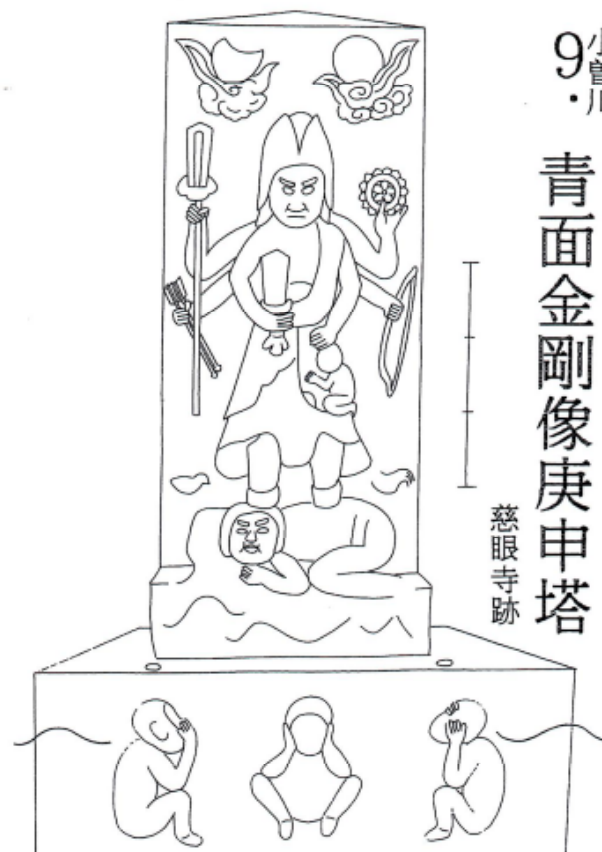


天保2 (1831)

10. 小曾川

青面金剛像庚申塔

慈眼寺跡



寛政11 (1799)

9. 小曾川

青面金剛像庚申塔

慈眼寺跡

11・小曾川

六十六部廻国塔



明和5 (1768)

田口家「小曾川三三〇」路傍

12・小曾川

鳥八臼の墓塔



元禄11 (1698)

中島家「小曾川二六六」そば共同墓地

13・小曾川

青面金剛像庚申塔



元禄5 (1692)

中島家「小曾川二三三」路傍

14・小曾川

青面金剛像庚申塔



宝暦4 (1754)

藤井家「小曾川四二二」そばの墓地

11・小曾川

六十六部廻国塔



明和5 (1768)

田口家「小曾川三三〇」路傍

12・小曾川

鳥八臼の墓塔



元禄11 (1698)

中島家「小曾川二六六」そば共同墓地

13・小曾川

青面金剛像庚申塔



元禄5 (1692)

中島家「小曾川二三三」路傍

14・小曾川

青面金剛像庚申塔



宝暦4 (1754)

藤井家「小曾川四二二」そばの墓地

15^{小曾川}

秩父講供養塔

藤井家「小曾川四二二」そばの墓地

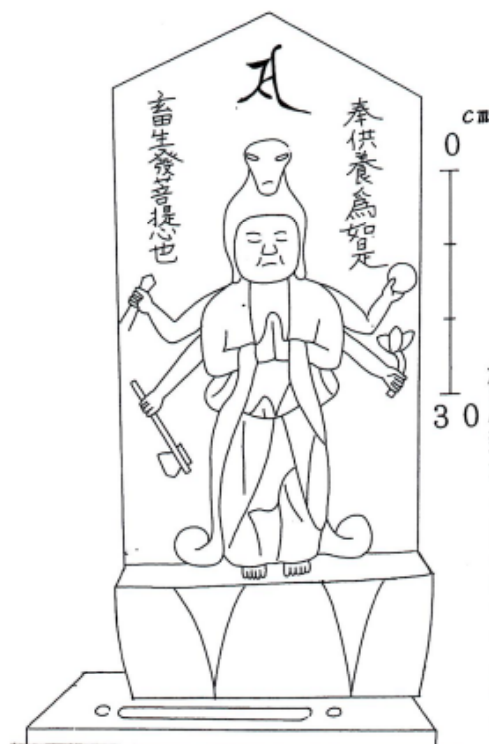


安永7 (1778)

1^{砂原}

馬頭観音菩薩像

砂原新橋そば元荒川土手道



宝暦3 (1753)

2^{砂原}

道標付き青面金剛像庚申塔

松沢家「砂原八五〇一」そば路傍

〔側面〕

奉青面金剛供養現當二世所念威儀
ちぢみん
あいまり
さむ



宝永5 (1708)

3^{砂原}

阿弥陀像付き百堂巡礼塔

松沢家「砂原八五〇一二」そば路傍



寛文2 (1662)

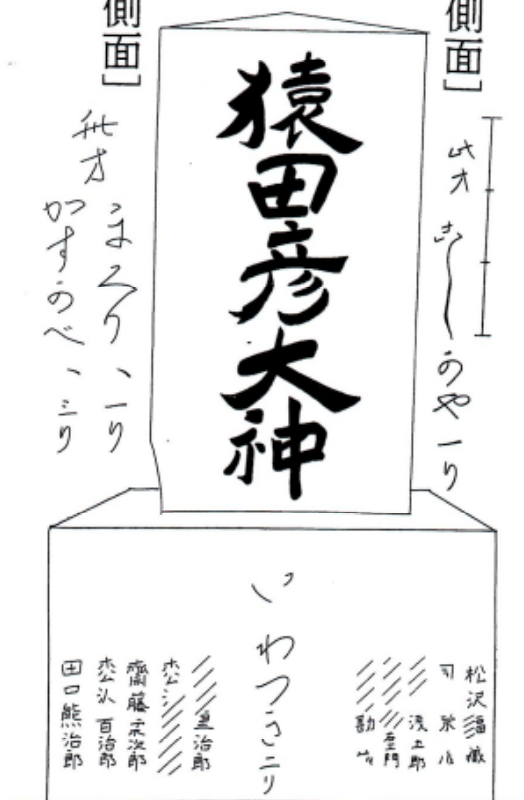
5^{砂原}

道標付き猿田彦文字庚申塔 久伊豆神社

〔側面〕 小オチーのやーり

〔側面〕

此方 小オチーのやーり
わすのべーり



明治5 (1872)

4^{砂原}

青面金剛像庚申塔

平野家「砂原七七五」路傍



享和3 (1803)

6^{砂原}

青面金剛像庚申塔

久伊豆神社

〔側面〕 小オチーのやーり

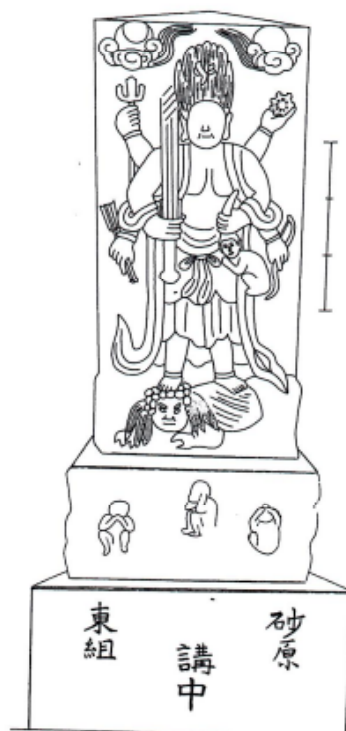
〔側面〕 小オチーのやーり



文化2 (1805)

7. 砂原

青面金剛像庚申塔

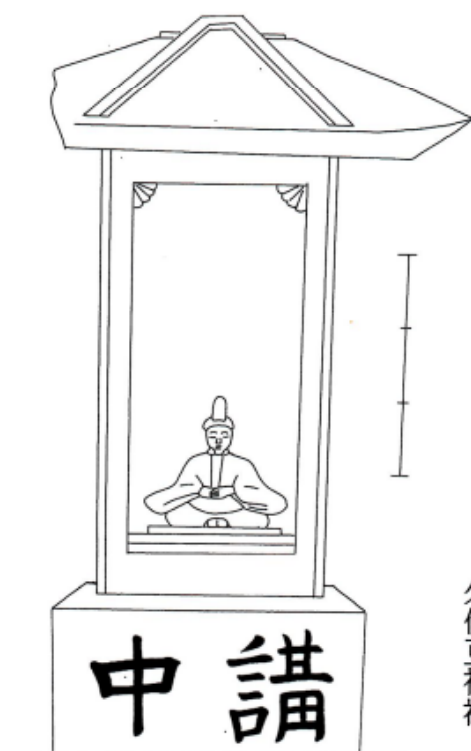


久伊豆神社

嘉永元 (1848)

8. 砂原

天神像



久伊豆神社

天明8 (1788)

9. 砂原

地藏像付き石橋供養塔



聖動院跡墓地

元文4 (1739)

10. 砂原

不動明王像



聖動院跡墓地

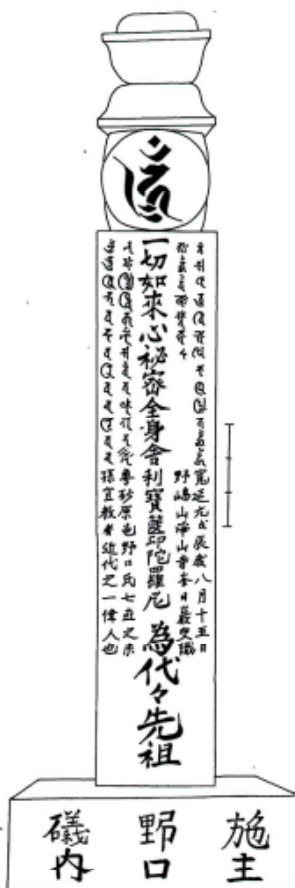
11. 砂原

「宝篋印陀羅尼」梵字文供養塔

聖動院跡墓地

寛延元戌辰歳八月十五日
野嶋山淨山寺峯日嚴史識

此塔の建立は、先代々先祖
一切如来秘密金身舍利寶篋印陀羅尼為代々先祖
此塔の建立は、先代々先祖
一切如来秘密金身舍利寶篋印陀羅尼為代々先祖



天明6 (1786)

12. 砂原

六地藏塔

角堂坊墓地



天明6 (1786)

13. 砂原^{追加}

菅公像

平野家邸内 (砂原二四五)

非公開



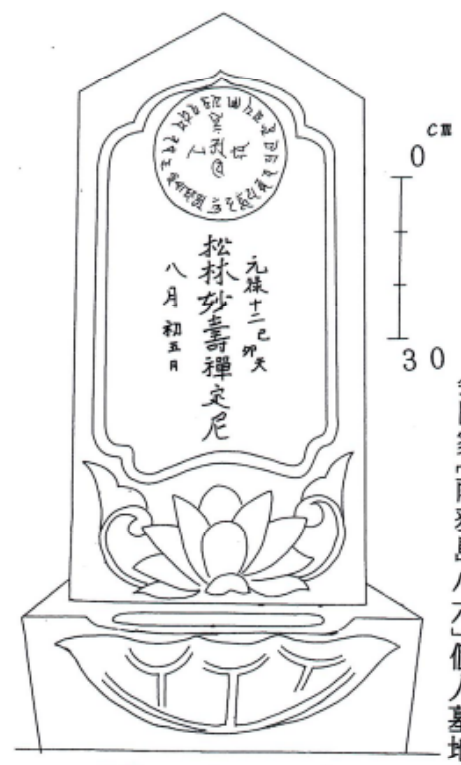
文久2 (1862)

茅葺屋根の残る平野家 (砂原二四五) 個人墓地の墓塔の墓誌
君名ハ宇兵衛重満、祖父宇左エ門ノ長男、文化十四年五月十
五日誕生、母ハ大相模郡山田氏ノ女ナリ、二男二女アリ、長女
みか、豊春村小嶋治助ニ嫁ス、次女たけ、和土村川嶋源次郎
ニ嫁ス、次男宇八郎、幼ニシテ学ヲ好ミ、別家文造ノ家督相
続セリ、不幸ニシテ病発十七歳ニテ早世ス、君ハ体格強
壮ニシテ就業ニ勉メ、平素酒ヲ嗜ミ、大ニ家事ヲ整理ス、
又、文久三年正月、居家新築ノ工ヲ起シ、春秋ヲ積ミ全ク
竣工ヲ告タリ、其苦心之口思フヘキナリ、閑居シテ后テ黒
住教会ノ門ニ入り広ク講心ヲ得ナリ、是レヲ之レ永遠
ニ伝ヘシカ為メ、茲ニ誌ス
※口は「事」か。
明治二十五年九月十三日 長男平野宇三郎建之

1. 荻島

光明真言曼荼羅塔

会田家「南荻島八六」個人墓地

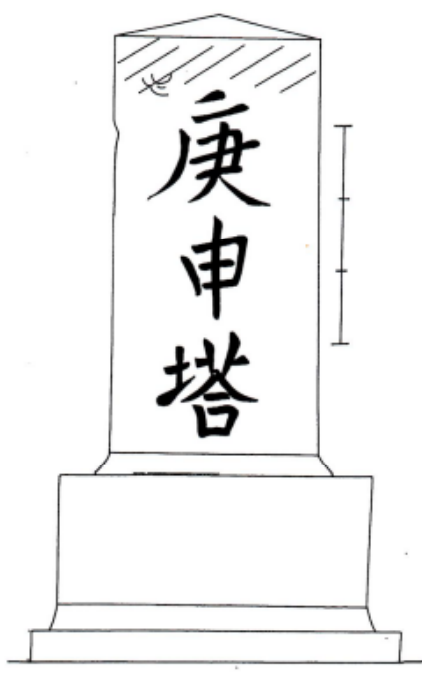


元禄12 (1699)

2. 荻島

文字庚申塔

会田家「南荻島八七」路傍

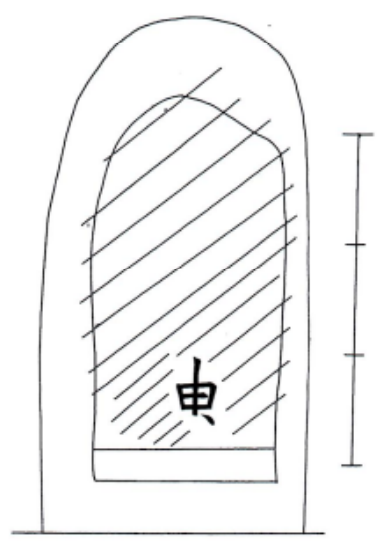


天保12 (1841)

3. 荻島

「川水神」文字塔

かわすいじん
稻荷神社参道入口



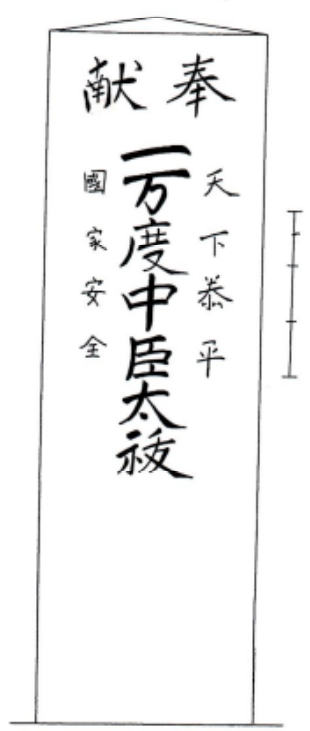
天保3 (1832)

4. 荻島

「大祓」文字塔

おおはらい

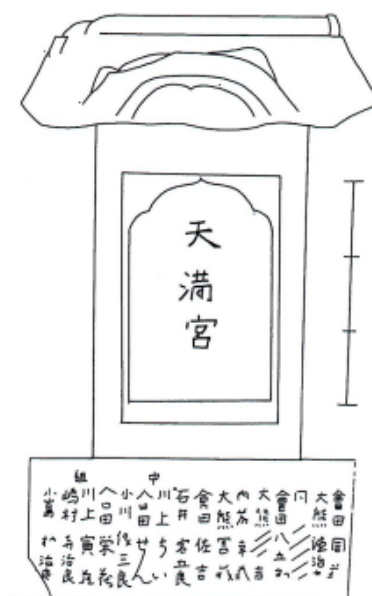
稻荷神社



5荻島

「天満宮」文字塔

稻荷神社

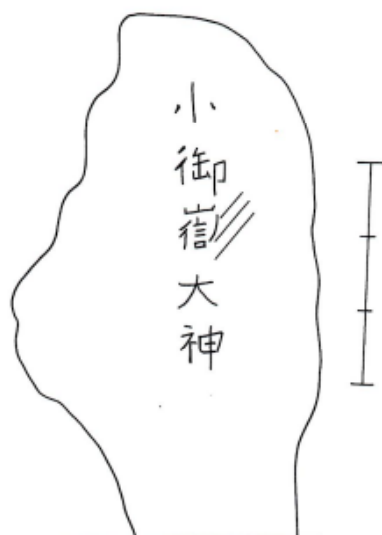


天保9 (1838)

6荻島

「小御嶽大神」文字塔

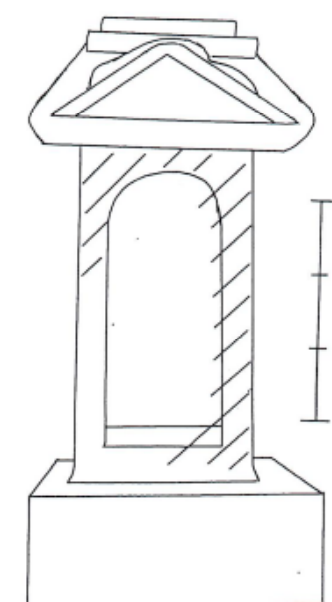
稻荷神社



7 荻島

主尊不明文字塔

稻荷神社

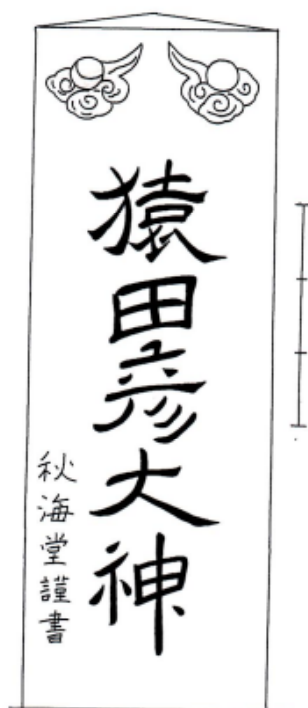


寛保2 (1742)

8 荻島

猿田彦文字庚申塔

稻荷神社



安政6 (1859)

9. 荻島

三猿庚申塔

中島家「南荻島二一〇」そば出津地

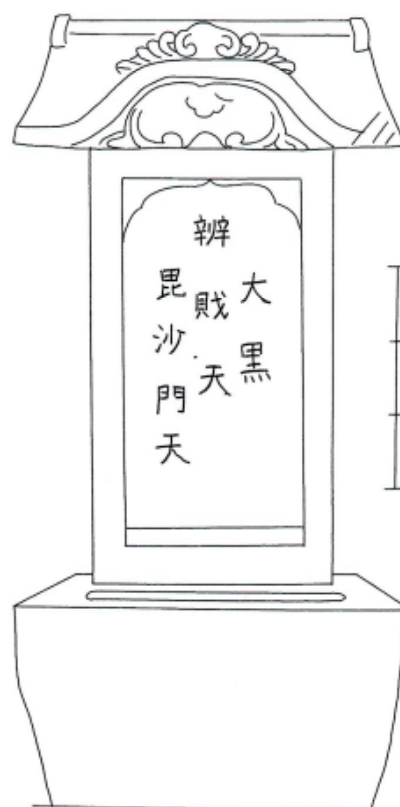


寛文9 (1669)

11. 荻島

「弁財天」文字塔

中島家「南荻島二一〇」そば出津地



寛政10 (1798)

10. 荻島

青面金剛像庚申塔



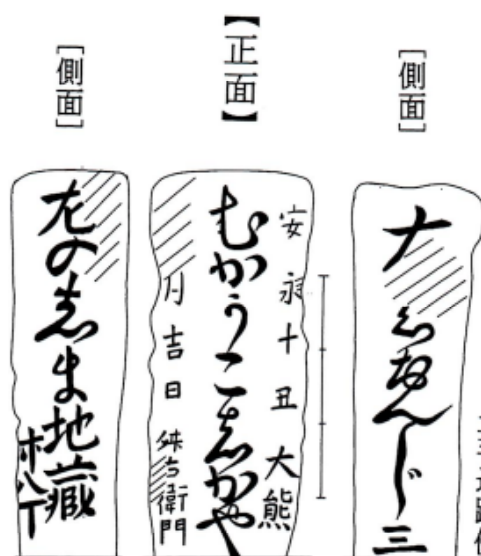
天明5 (1785)

12. 荻島

道標石塔

大熊家「南荻島三八五六」

土手道路傍



安永10 (1781)

13^{荻島}

一石六地藏菩薩像

玉泉院

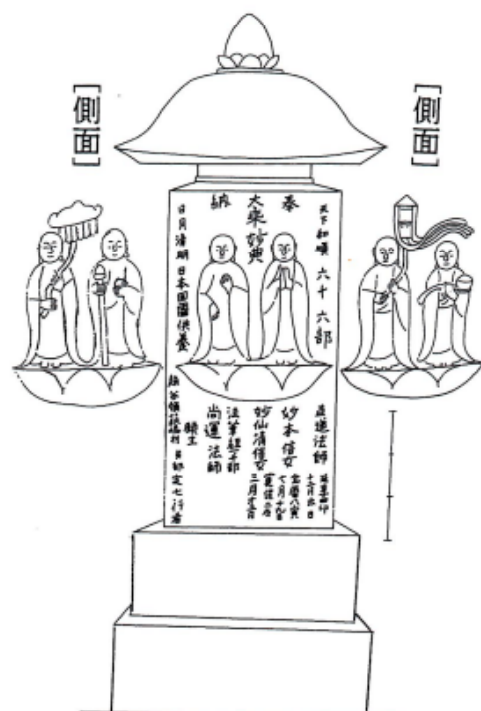


元禄5 (1692)

14^{荻島}

六地藏像付き六十六部廻国塔

玉泉院

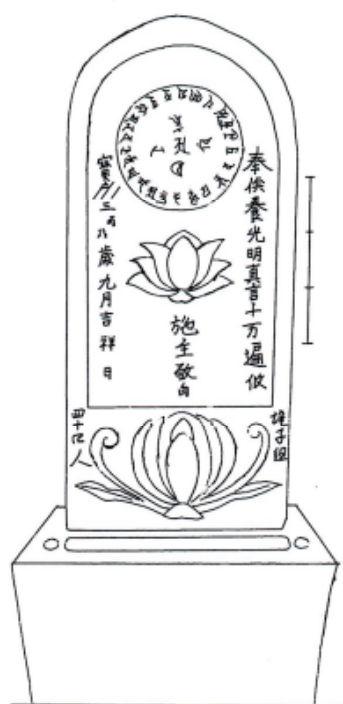


明和7 (1770)

15^{荻島}

光明真言曼陀羅塔

玉泉院



宝永3 (1706)

16^{荻島}

六地藏塔

会田家「南荻島三六五」個人墓地



宝暦7 (1757)

17^{荻島}

地蔵菩薩像

野合自治会館



18^{荻島}

文字庚申塔

野合自治会館



享和元 (1801)

19^{荻島}

青面金剛像庚申塔

野合自治会館

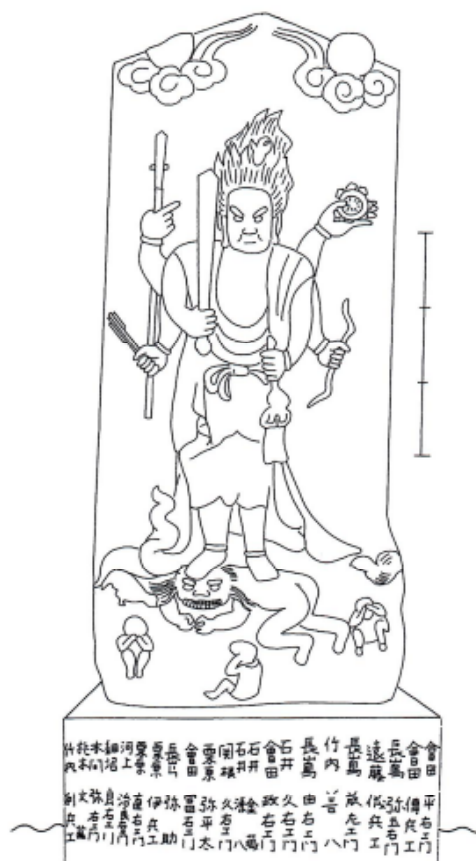


文化8 (1811)

20^{荻島}

青面金剛像庚申塔

野合自治会館



文政7 (1824)

川細於國本航作
亦乙清本根弓本内

市漢仲軍久生左并
右左右左左左左左

日同同同同同同
系 清

系長系安系仁文
三三三三三三三三

同石同
系 井

右清久源平
右清久源平

系系系
系系系

系系系
系系系

系系系
系系系



安永8 (1779)

22 荻島

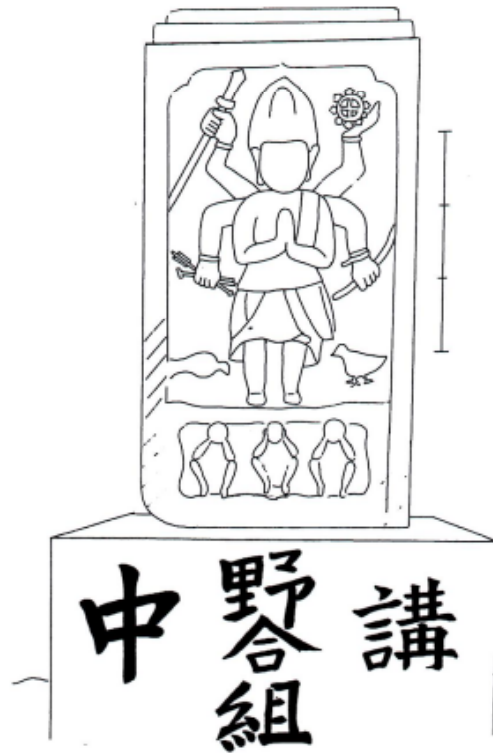
文字庚申塔

野合自治会館

21 荻島

青面金剛像庚申塔

野合自治会館

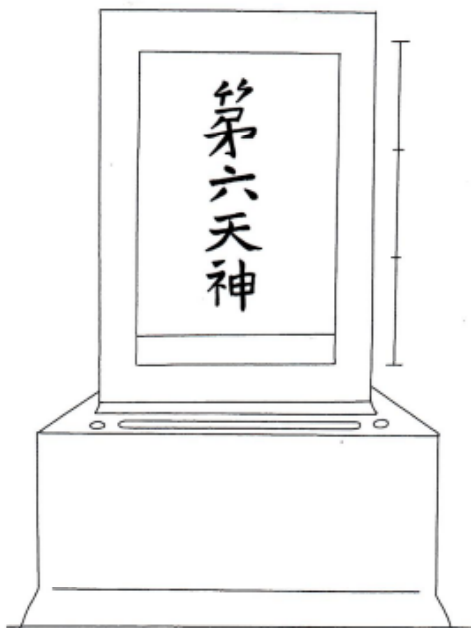


享保2 (1717)

24 荻島

「第六天」文字塔

野合自治会館



享保3 (1718)

23 荻島

六地藏塔

野合自治会館

〔側面〕

〔正面〕

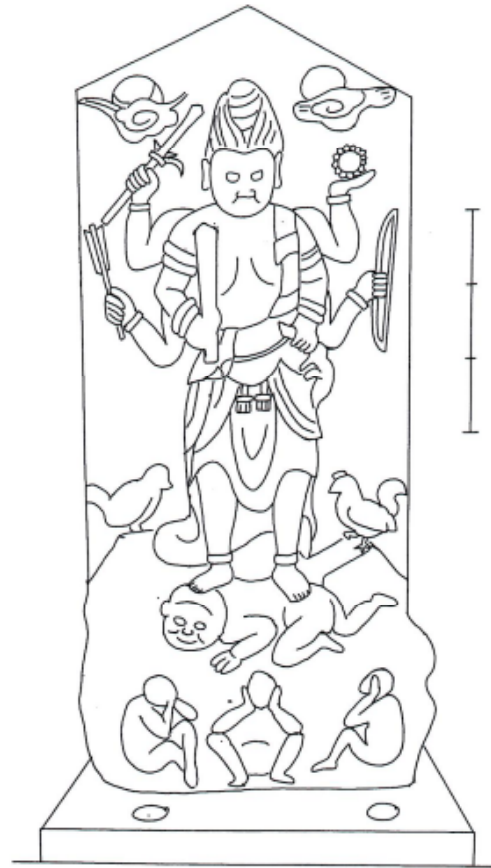
〔側面〕



25^{荻島}

青面金剛像庚申塔

野中自治会館



26^{荻島}

三猿庚申塔

野中自治会館



延宝9 (1681)

27^{荻島}

「雷電宮」文字塔

野中自治会館

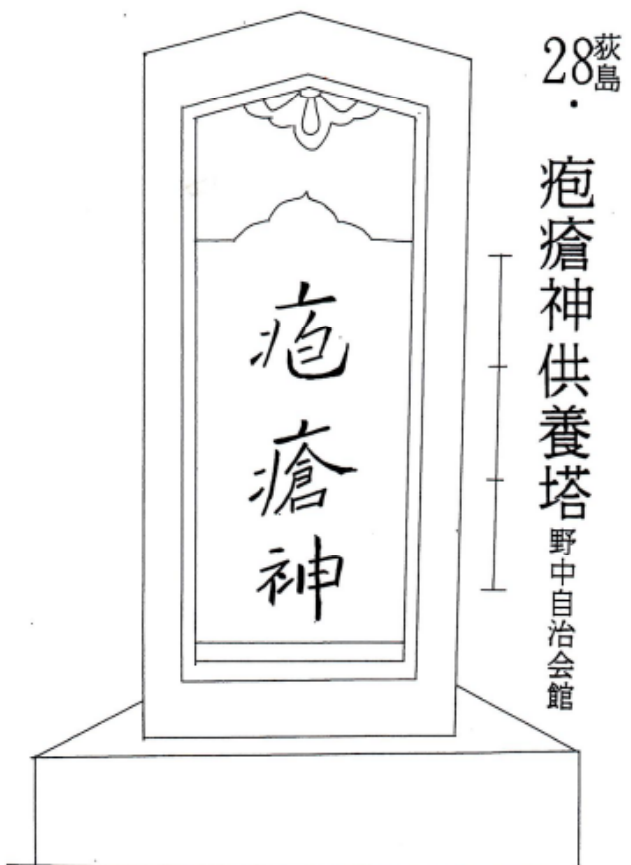


安政3 (1856)

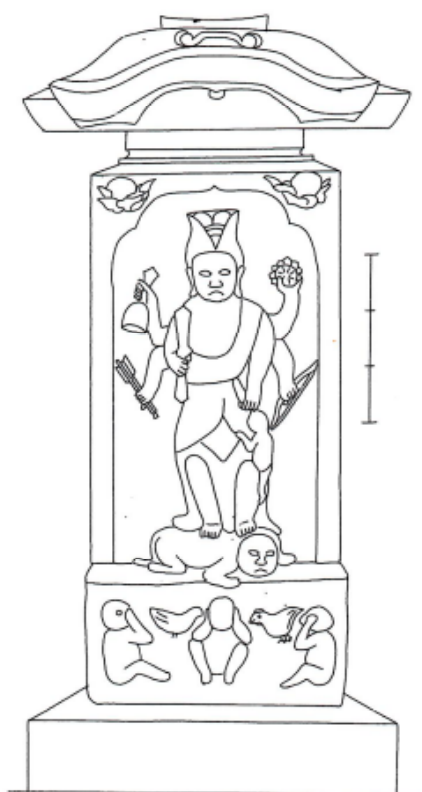
28^{荻島}

疱瘡神供養塔

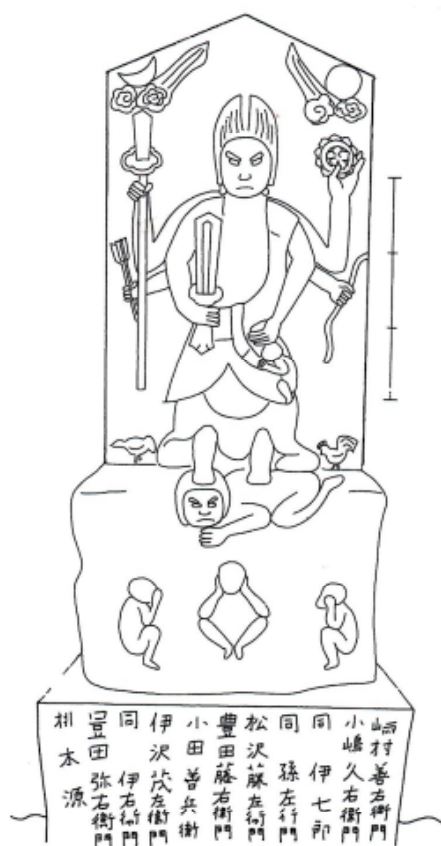
野中自治会館



文久2 (1862)



延享2 (1745)



寛政7 (1795)

34荻島

青面金剛像庚申塔

中組集会所



宝永4 (1707)

33荻島

青面金剛像庚申塔

中組集会所

35荻島

青面金剛像庚申塔

中組集会所



正徳 3 (1713)

36 荻島

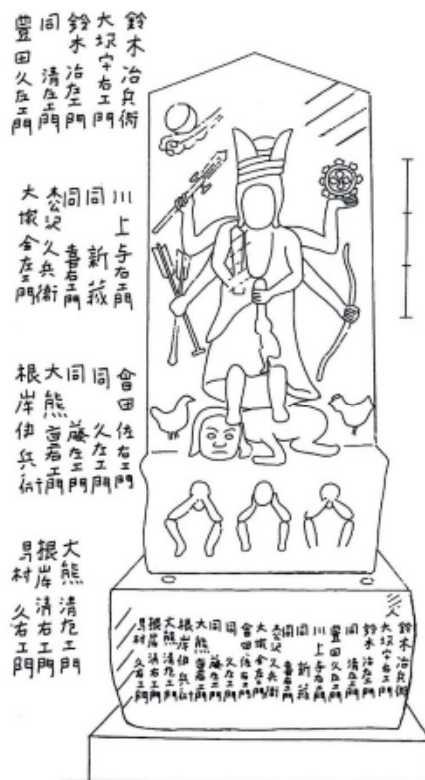
青面金剛像庚申塔

中組集会所

37^{荻島}

青面金剛像庚申塔

鈴木家「南荻島一三八二」路傍



寛政2 (1790)

39^{荻島}

一石六地藏菩薩像

「ひやみず」共同墓地



正徳2 (1712)

38^{荻島}

文字庚申塔

根岸家「南荻島一一四五」西側路傍



寛政3 (1791)

40^{荻島}

観音像付き念仏供養塔

「ひやみず」共同墓地



寛文5 (1665)

1. 後谷

「稻荷大明神」文字塔

根郷の稻荷神社

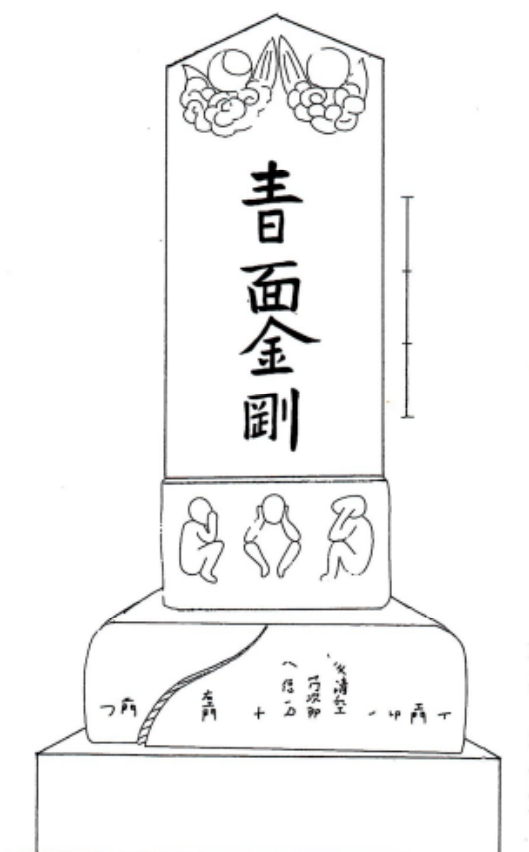


文政11 (1828)

2. 後谷

文字庚申塔

根郷自治会館

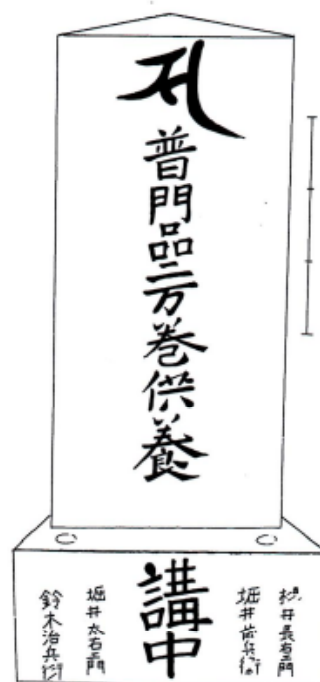


寛政12 (1800)

3. 後谷

普門品供養塔

根郷自治会館

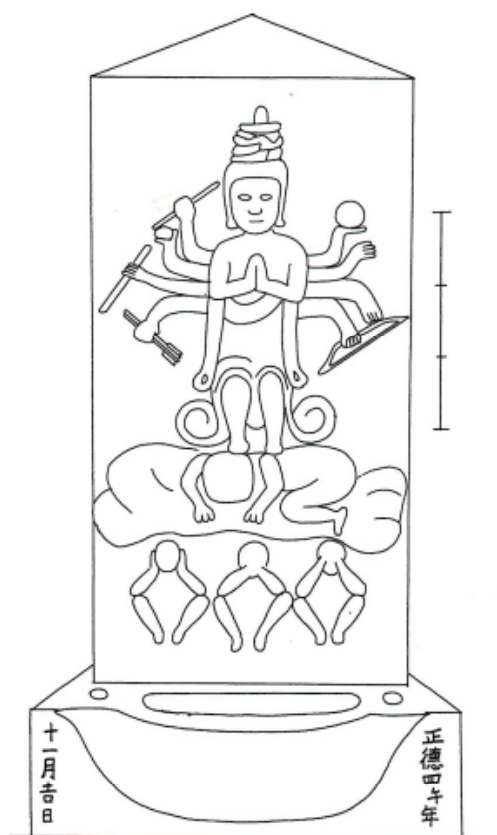


寛政12 (1800)

4. 後谷

青面金剛像庚申塔

根郷自治会館



正徳4 (1714)

5後谷

青面金剛像庚申塔

根郷自治会館

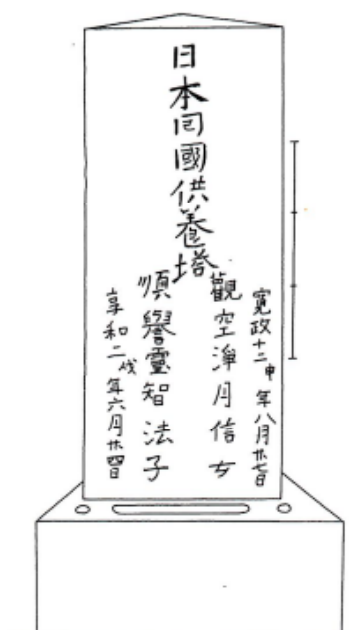


嘉永3 (1850)

6後谷

六十六部廻国塔

根鄉自治會館



享和2 (1802)

7後谷

百觀音巡禮塔

根郷自治会館

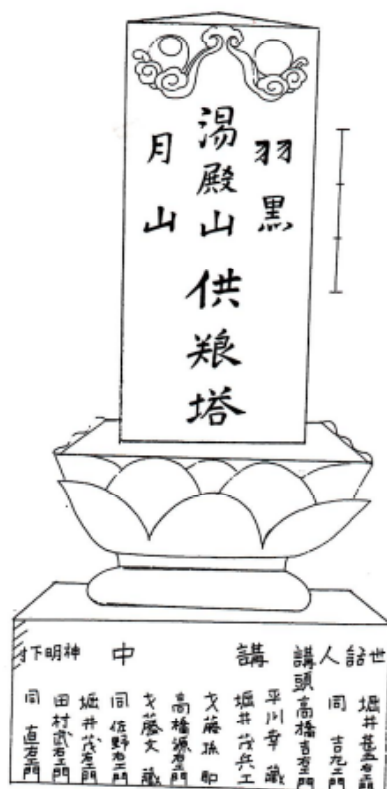


天保7 (1836)

8後谷

出羽三山供養塔

北前の稲荷神社

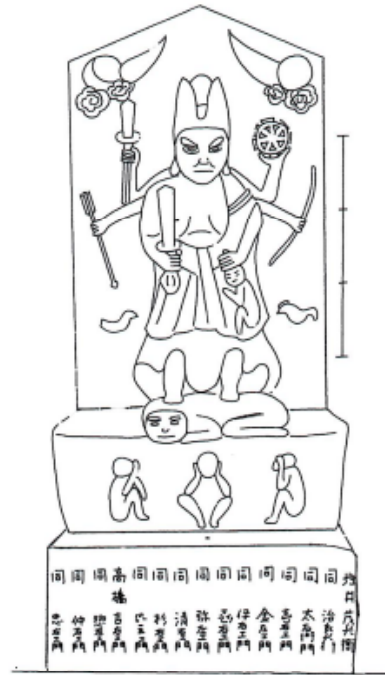


文化9 (1812)

後谷 9・
 推井 茂共街
 治教行
 太右衛門
 吉右衛門
 金左衛門
 伊右衛門
 志左衛門
 弥左衛門
 清左衛門
 杉右衛門
 高橋
 吉右衛門
 惣左衛門
 仲左衛門
 忠右衛門

青面金剛像庚申塔

北前の稲荷神社



寛政4 (1792)

後谷 10・

不動明王三尊像

北前の稲荷神社

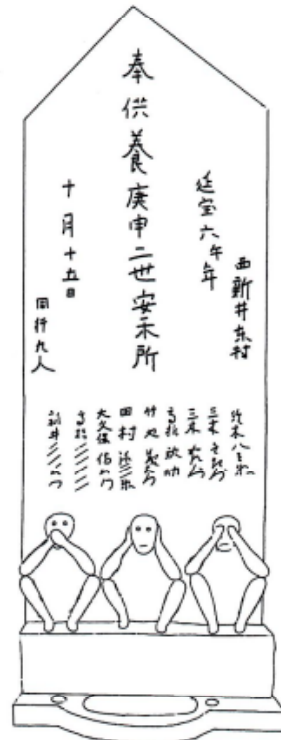


嘉永4 (1851)

西新井 1・

三猿庚申塔

大石橋北側の山王社

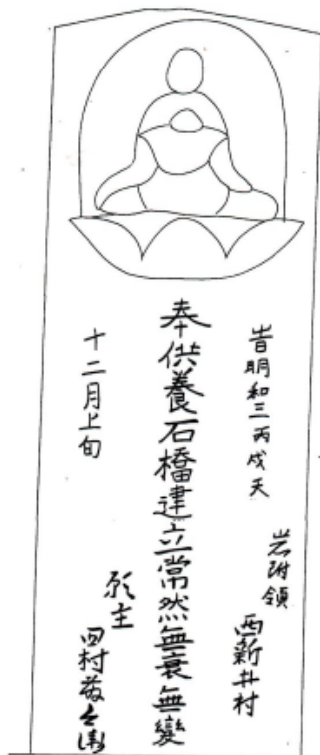


延宝6 (1678)

西新井 2・

石橋供養塔

大石橋北側の山王社



明和3 (1766)

3^{西新井}

青面金剛像庚申塔

大石橋北側の
山王社

〔側面〕

け
う
ふ
こ
ー
か
や
文化九壬申十一月吉日
カ
ノ
ー
ハ
ノ

〔側面〕

ホ
の
方
乃
ト
マ
ル

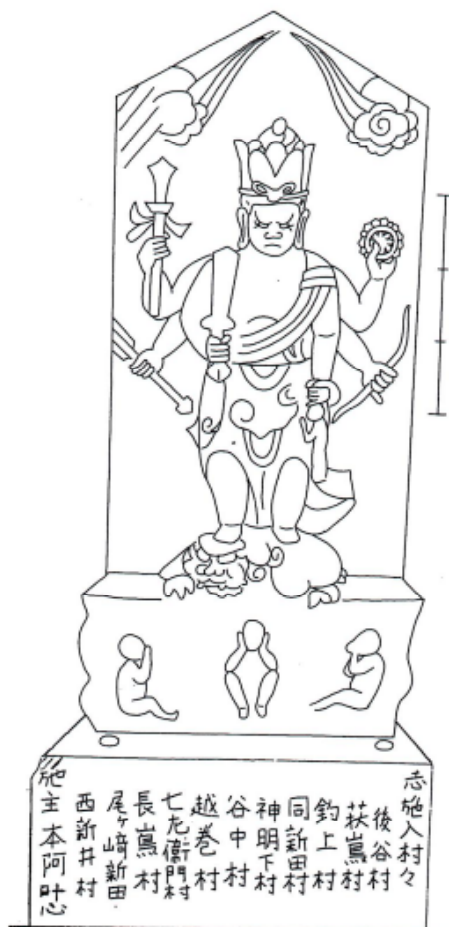


文化9 (1812)

5^{西新井}

青面金剛像庚申塔

西教院



寛保3 (1743)

4^{西新井}

馬頭観音菩薩像

西教院



宝暦13 (1763)

6^{西新井}

不動明王三尊像

西教院



11 西新井

観音菩薩像

西教院

寛文六丙午
道意妙蓮淨旨妙藥教所
七世父母
施主



福運妙順 蓮蓮印智妙香
願故 早著利益 欽白

寛文6 (1666)

13 西新井

阿弥陀如来像庚申塔

西教院

奉造立尊像者
寛文三庚申
市郎右門助
吉兵衛
施主



為庚申待供養也
十月十五日
門下仁左衛門
八右衛門
施主

寛文3 (1663)

12 西新井

地蔵像庚申塔

西教院

奉造立尊像者為度申供養也
時其於此法堂而於也
施主



丁時万治二年
癸亥 霜月吉日自他回難信心之檀主敬白

折信士
在兵衛
六男
明右門
二右門

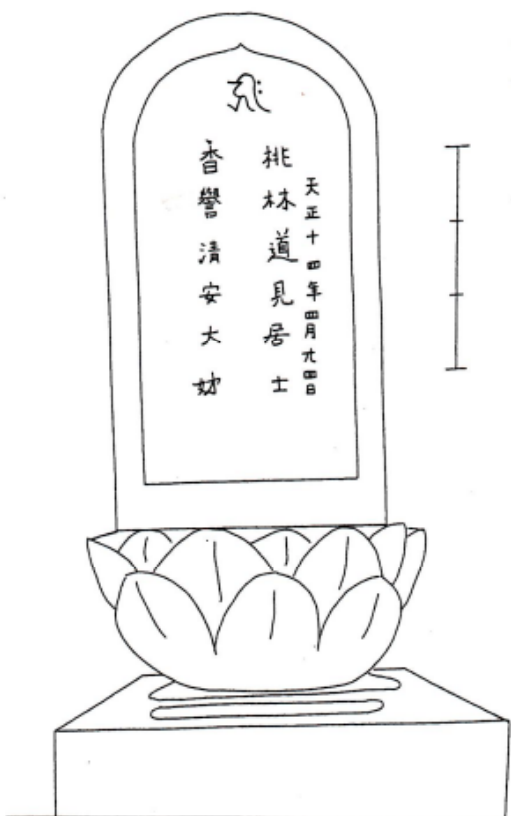
万治2 (1659)

14 西新井

斎藤家初代の墓塔

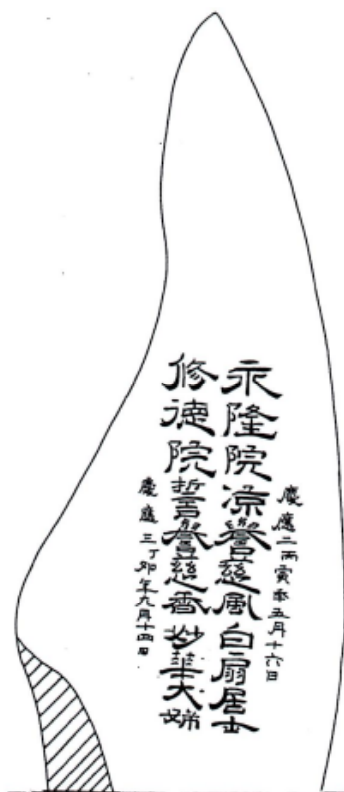
西教院

天正十四年四月九日
桃林道見居士
香譽清安大姉



15・西新井

斎藤徳三郎の墓塔

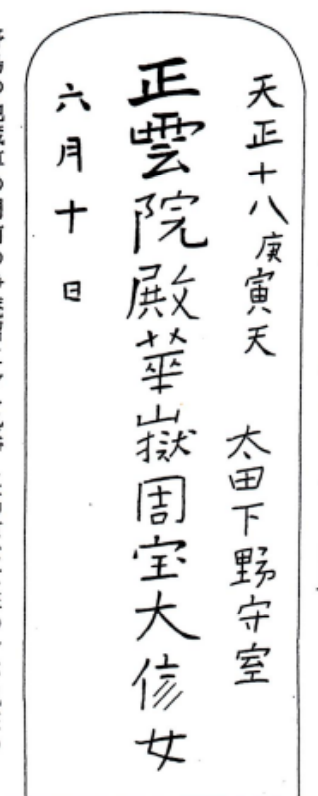


西教院

16・西新井

『椿割塚』の墓塔

つばきわりづか
田村家「西新井六九〇」道路反対側

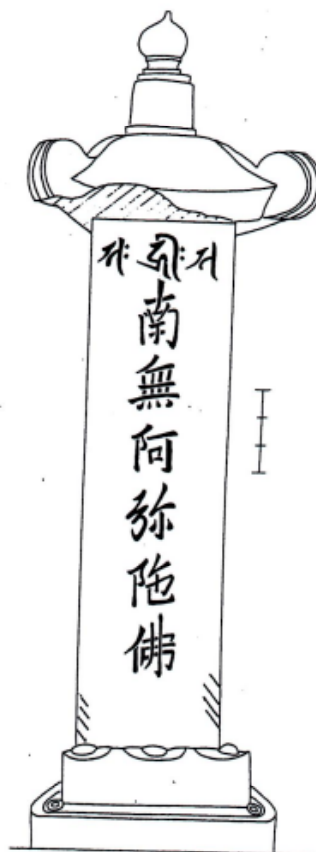


寛文9 (1669)

野島の地藏尊の門前の浄庵沼に身を投げた高貴な女性の身が現在の椿割塚の地に流れ着いたという。西新井七八二の高橋家（屋号は「浄庵」）東側道路は昔は川（浄庵堀）であったとの言い伝えが残る。

17・西新井

名号塔



西組自治会館

文化4 (1807)

18・西新井

文字庚申塔

西組自治会館



文久3 (1863)

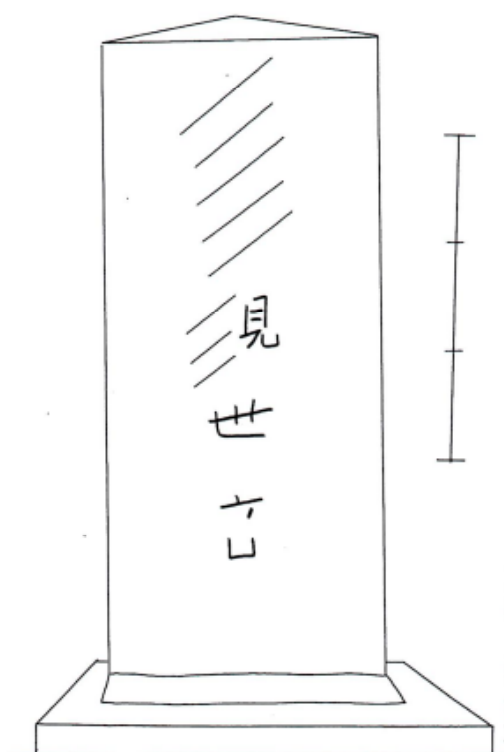


20 西新井・

青面金剛像庚申塔

石神井神社

嘉永3 (1850)



19 西新井・

「馬頭観音」文字塔

西組自治会館

万延元 (1822)



22 西新井・

「浅間大神」文字塔

石神井神社



21 西新井・

青面金剛像庚申塔

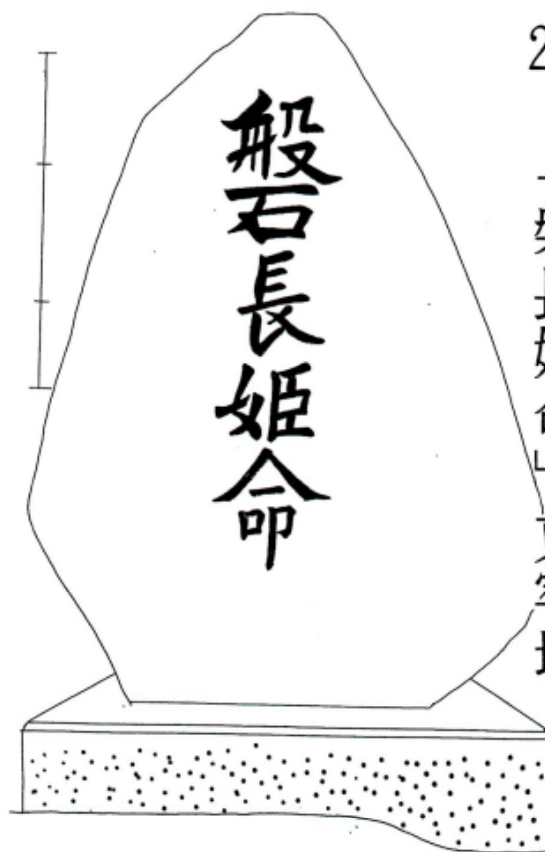
石神井神社

23 西新井

「磐長姫命」いわながひめのみこと

文字塔

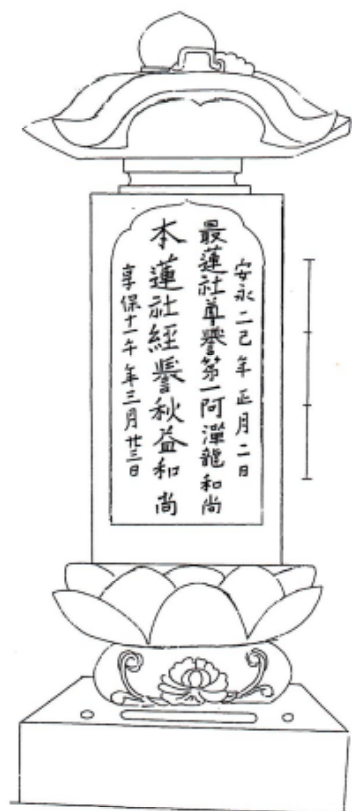
石神井神社



24 西新井

僧侶の墓塔

西前自治会館

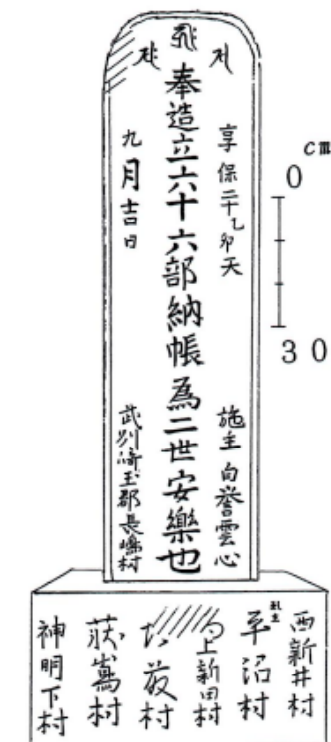


安永2 (1773)

1 長島

六十六部供養塔

長島自治会館



享保20 (1735)

2 長島

青面金剛像庚申塔

長島自治会館

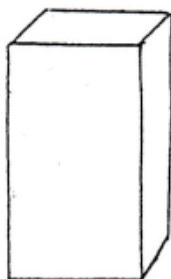


享保3 (1718)

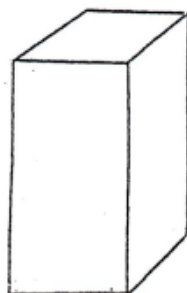
塔 型 分 類

当資料では、石塔の型式の分類を以下のようにする。

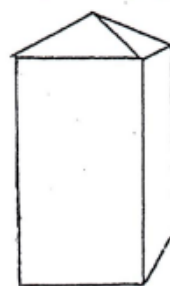
かくがた
角 型



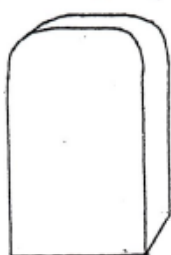
かくちゅうがた
角柱型



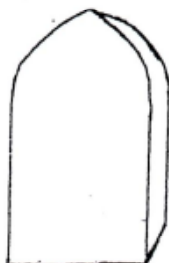
とうぶ
やまじょうかくがた
山状角型



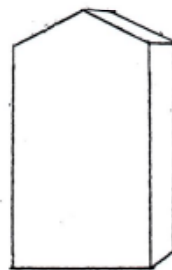
じょうぶ
すみまるかくがた
上 部
隅丸角型



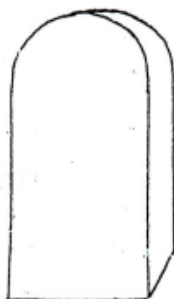
ふながた
舟 型



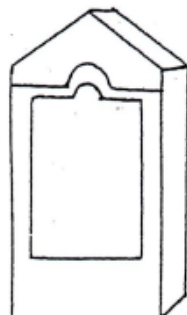
こまがた
駒 型



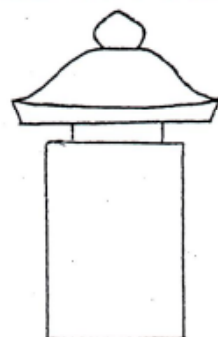
じょうぶまるがた
上部丸型



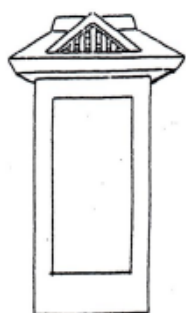
いたびがた
板碑型



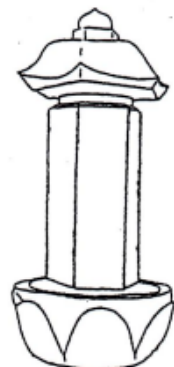
かさつきかくがた
笠付角型



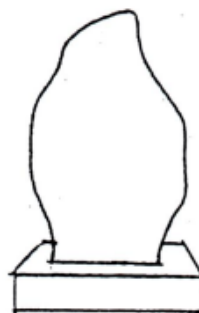
ほこらがた
祠 型



ろくめんせきどう
六面石幢



しぜんせき
自然石



また、石塔の高さの目安を以下のようにする。

「低」は ～50cm

「中」は 50cm～120cm

「高」は 120cm～200cm

「超高」は 200cm～

旧野島村の石仏

(1) 浄山寺(野島地蔵尊)

浄山寺は、天正十九年(一五九一)に天台宗慈福寺から現在の曹洞宗浄山寺に改めた。寺伝によると、この年、徳川家康が来て寺領として三百石を寄進したが、この時の住職は過分であるとして辞退する。そこで家康は懐紙(ふところ)がみ・鼻紙)を取り出して、高(たか)三石として記し住職に与えた。このため家康から直接もらったとされる寺領高三石の朱印状を「鼻紙朱印状」と呼ばれるようになったという。

また、本尊の地蔵菩薩が僧侶の姿になって本堂を抜け村を出歩いていると、茶の木で片方の目を突き刺して片目になったとの片目地蔵伝説がある。毎年二月二十四日と八月二十四日は地蔵の縁日で、境内は露店などが立ち並び大変賑わった。

さらに、直径六尺(約一八〇センチ)もある全国に希にみる大きさの罽口(わにぐち・天保十二年、一八四一年に奉納)がある。

1. 丸彫り地蔵菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 野島・浄山寺山門前

石塔型式 丸彫(南向き・高さは超高)

年号 天保十四年(一八四三)

〔正面〕 野 台 石

(梵字カ) 摂化浄生信女

(地蔵菩薩立像) 嶋 経日

現世處求皆満足後生

浄土可令得無上忍云云

為 施主中菩提也

〔右側面〕

山

〔台 石〕

当山廿一世珉宗代

天保十四 癸卯 年初冬吉日

願主 葉山氏

※初冬とは、陰暦の十月をさす。

2. 丸彫り地蔵菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 野島・浄山寺山門前

石塔型式 丸彫(南向き・高さは超高)

年号 享保十八年(一七三三)

〔正面〕

(地蔵菩薩立像)

〔台 石〕
惣施主當村并万人講中
奉 造立地蔵尊
野嶋村願主即心

〔右側面〕

願以功德普及於一切
我等與衆生此共成仏道

享保十八 癸丑 年

二月二〇(二十四日)

3. 普門品供養塔(『越谷市金石資料集』普門品一六番)

所在地 野島・浄山寺境内

石塔型式 頭部山状角柱型(東向き・高さは高)

年号 文化十年(一八一三)

〔左側面〕

文化十 酉年十一月廿四日樹馬局

下野田村 宇田川勘左工門

願主講中

同砂原住即明首座

〔正面〕

奉

統 普門品二十萬卷供養塔

誦

※この石塔に刻まれた「誦」は、篆書体の漢字が使われている。

〔右側面〕

天 下 泰 平
五 穀 成 就

〔台石(左側面)〕

半三良

石田良右工門

横川権兵工門

伊原岩右工門

同 庄吉

石川次良右工門

黒羽新右工門

白石 龜藏

山口三良兵工

岡部 角平

時田平右工門

丸山惣左工門

浮谷村

石井甚兵工

倉持嘉右工門

清水金右工門

岩井次良介

並木八右工門

同 与右工門

同 与吉

山口惣五良

本田宗右工門

同 十右工門

本田政之丞

岩井幸右工門

清水三良右工門

柏崎村

岩附市宿

□ 村

〔台石（正面）〕

末田村

木崎善右工門
同 喜平太吉
榎本彦左衛門
太安覺禪上座
発誘善起信女
丸井佐助母
同 友部甚兵衛
村田吉十良
増田綱五良
瀬川屋清介
美濃屋喜藏母
川本清五良
小倉屋市郎兵衛
清水さつ
熊沢のあみ
押田ひさ
森やはま
齊藤しらを
田口久右工門
同 喜三郎
同 喜三郎
大平増右工門
中嶋兵藏
藤井文左工門
中嶋平藏
関根久兵衛
中嶋忠兵衛
同 甚左工門
中嶋幸内
岡野徳左工門
木橋七左工門
木嶋若右工門
藤井磯右工門
増田太右工門
吉沢三三良
同 喜三郎
向佐仙右工門
宮崎孫右工門
木村与右工門

坂巻 基内
森田 八十
同 長兵衛
金子 弥吉

大森村

須賀村

[illegible]

三ノ宮村	同 秀蔵 森伊右工門 坂巻万右工門 同 金蔵 同 嘉右工門 根岸平右工門 森田長右工門 榎本長右工門 須賀長左工門	大戸村	堀切与惣次 同 浅左工門 同 利左工門 同 次左工門 同 惣右工門 小嶋 文介 同 忠内 鈴木 久七 堀切斧右工門 小嶋次良七
岩附市宿町	「台石(裏面)」 佐のやちよ 板屋孫七母 細井五太夫 川じまてう 小川 さよ 田中 きく	荻嶋村	中島 要蔵 嶋村定右工門 会田 長蔵
横根村	吉田 佐吉 山崎 銀蔵 清水 文蔵 同 次良八 同 川清蔵 同 角右工門 同 庄左工門 同 幸七 本田万右工門 夏目 林蔵 大佐原沢右工門 田口 源蔵 同 乙右工門	切組	石井弥兵工 栗原弥三良 川上由右工門 細沼武右工門 竹内 利介 石井久右工門 藤井弥五兵工 会田清右工門
笹久保村	鈴木喜平次 田中弥兵工 宮野万右工門 会田 与介	大里村	小暮 兵蔵 海老原佐平太 吉田由右工門 押田 金蔵 長野幸左工門 同 梅蔵 多ヶ谷常八
足立郡高畑村	吉田 郡蔵	大畑村	海老原佐平太 吉田由右工門 押田 金蔵 長野幸左工門 同 梅蔵 多ヶ谷常八
尾ヶ崎新田	新井新右工門 桑原吉良兵工 中村 清蔵 斎藤七右工門	下新井	増岡勘右工門 清水 佐七 中嶋丈右工門 同 四良右工門 同 源蔵 万人講中 野口平兵工 久米原直右工門 田口由右工門 川島仲右工門
笹久保新田	横根村	高曾根	セハ人 大道

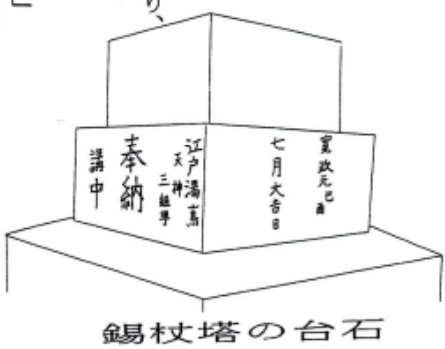
※「越谷市金石資料集」の道標一番に、野島岩槻街道の路傍の「野島地蔵尊入口」と刻まれた道標を紹介しているが、これは昭和三十年代に作られた高さ約百二十五センチの御影石製である。越谷市教育委員会が市内の石仏の悉皆調査した昭和四二・三年頃には既に県道越谷・岩槻線の野島バス停あたり(県道からの浄山寺へ入る入口)に設置されていた。現在は、浄山寺の裏(北東方向)の土手道に移転されている。

※なお「越谷市金石資料集」に浄山寺にあると掲載されている普請供養5、6、13が現在所在不明である。

※特に普請13は、寛政元年(一七八九)七月に建立された巨大な錫杖塔で、江戸の湯島天神三組町講中が奉納したもので貴重である。台石の上に、頭部が数個の銀(わ)の付いた鉄製、杖の部分が円柱状の御影石製の錫杖が安置されていた。しかし、頭部の鉄の部分は太平洋戦争の時に国に供出され、台石は新たに「錫杖塔」が再建された頃(昭和六十一年)に行方不明となった。



かつての
錫杖塔



錫杖塔の台石

※浄山寺の「鳥八白」

この浄山寺墓地には、墓塔の表面上部に「鳥八白」などと刻まれた「鳥八白(うはっぴやく)」と呼ばれる墓塔が多く見られる。「鳥八白」については、「旧小曾川村の石仏」の「(4)中島家そば共同墓地」の項で解説したので参照されたい。

次は郷土史家の中村守氏(岩槻市日の出町二一四〇)による浄山寺の墓地の調査結果をもとに再調査し整理したものである。「鳥八白」が何

〔正面〕

奉造立庚申之塔現當二世安樂所

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

正徳三癸巳年十一月吉日

※「金石資料集」の庚申五八が所在不明

(30) 野口家(野島一八〇) 吹路傍

6. 「馬頭観音」文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭六番)

所在地 野島・野口家(野島一八〇) 前の路傍

石塔型式 上部隅丸角型(南西向き・高さは中)

年号 天明五年(一七八五)

〔正面〕

天明五乙巳年 施主伊左エ門

馬頭観世立

十二月吉日 同 四良右エ門

※高野家(野島三〇二)の北側路傍に造立された高さ約六十二センチの

馬頭観音文字塔がある。次の通りである。

◎馬頭観音文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭三八番)

所在地 野島・高野家(野島三〇二) 北側の堀割りそばの路傍

石塔型式 上部隅丸角型様特殊型(南西向き・高さは中)

年号 明治二十五年(一八九二)

〔正面〕

明治二十五年

馬頭観世立

八月廿二日

〔右側面〕

大正三年三月廿二日建之

高野あさ

武州崎玉郡

野嶋村庚講□(中)

高野庄左□(衛門)

鈴木政右衛門□(門)

山崎傳□(衛)

□(齊)藤七左衛門□(門)

山崎太兵□(衛)

高野山三□(郎)

野口源兵□(衛)

高野三左衛門□(門)

願主敬白

旧小曾川村の石仏

小曾川村の「小曾川」は、古老からの話によると、かつては、「こそがわ」とも呼んでいたという。事実、明治初期の「武蔵国郡村誌」には、「こそがわ」とルビがふられている。

(1) 久伊豆神社

この久伊豆神社は、小曾川村の鎮守である。

1. 疱神供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 小曾川・久伊豆神社

石塔型式 祠型(南東向き・高さは中)

年号 不詳

〔正面〕

疱神

※「疱神」とは、「疱瘡神(ほうそうがみ)」のことか。

2. 御嶽山供養塔(『越谷市金石資料集』御嶽二番)

所在地 小曾川・久伊豆神社

石塔型式 祠型(南東向き・高さは中)

年号 文久二年(一八六二)

〔左側面〕

(文久) 壬戌九月吉日

〔正面〕

(御嶽山)

〔台石〕

(次頁を

参照)

小曾川村 講中

※表面の破損が激しく、解説は不能。しかし『越谷市金石資料集』によると、「御嶽山」と刻まれていたとわかる。

御岳山(みたけさん)は、東京都西部の青梅市にある山で、「武州御岳」ともいう。山上にある御岳神社は古来より修験道の山岳信仰の霊場として関東一円の人々から盛んに信仰されてきた。

〔左側面〕

奉供養青面金剛二世安樂處

〔正面〕

〔日月〕（青面金剛像）（鬼）（三猿）（二鶏）
〔右側面〕

小曾川村

正徳四 甲 午 天十一月

施主十一人

※下部に描かれた二鶏は、雌雄が互にくちばしを合わせている珍しい姿である。

7. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二〇四、二〇五番）

所在地 小曾川村・久伊豆神社そば慈眼寺跡の共同墓地路傍

石塔型式 頭部山状角柱型（南東向き・高さは中）
年 号 寛政十一年（一七九九）

〔左側面〕

〔台 石〕

講 中

青面金剛

小曾川邑

〔正面〕

〔台 石〕

〔日月〕（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

〔右側面〕

〔台 石〕

寛政十一年

青面金剛

己 未 霜月日

8. 如意輪観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 小曾川・久伊豆神社そば慈眼寺跡の共同墓地路傍

石塔型式 舟型様隅丸角型（南東向き・高さは中）
年 号 文政九年（一八二六）

〔正面〕

〔台 石〕

小曾川村

講 中

（如意輪観音菩薩像）

願主

藤井□（あき）ひ

増田こん

金子くめ

文政九戊

十月吉日

9. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二〇四、二〇五番）

所在地 小曾川村・久伊豆神社そば慈眼寺跡の共同墓地路傍

石塔型式 頭部山状角柱型（南東向き・高さは中）
年 号 寛政十一年（一七九九）

〔左側面〕

〔台 石〕

寛政十一年

青面金剛

己 未 霜月日

〔正面〕

〔台 石〕

〔日月〕（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

〔右側面〕

〔台 石〕

小曾川邑

青面金剛

講 中

10. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二六〇番）

所在地 小曾川・久伊豆神社そば慈眼寺跡の共同墓地路傍

石塔型式 頭部山状角柱型（南東向き・高さは中）
年 号 天保二年（一八三一）

〔左側面〕

天保二 辛 卯 年

十一月吉日

〔正面〕

〔日月〕（青面金剛像）（鬼）

〔右側面〕

庚 申 塔

庚 申 塔

（3） 田口家（小曾川三三〇）吹路傍

11. 六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 小曾川・田口家（小曾川三三〇）路傍

石塔型式 頭部山状角柱型（南西向き・高さは高）
年 号 明和五年（一七六八）

〔左側面〕

おひの身で

廻る日の本

今爰に

如我有祈願

まくうれしき

隨喜施主

助金二分

助力供養

所々善男女等

小曾河村田口源右衛門

田口沢右衛門

田口善男等

田口善女等

俗名齋藤徳右衛門

法名植道宗本自題

※「まく」は「まこと」か「まして」の誤りか。

〔正面〕

天

下

和

部

願

満

塔

石

日

月

清

明

〔右側面〕

武蔵国埼玉郡越箇谷庄齋藤徳衛門者産于野嶋村而住于小曾河郷人也當欲奉納經日域六十六州歲已久終不忍止寶曆十二壬午暮春出郷遍□(歴)南西北中諸國而順禮神社仏閣四ヶ于茲乃還郷中間伸供養復明和二丙戌三月趣奥州駒坂東越年丁亥五月帰郷前後六年而納經上畢其間一日再宿厚恩捨財一鉢助力嗚呼幾平幸身心堅固所願満足皆是憑於三寶加護蒙乎衆人慈愛也依之為報恩謝徳彫刻這箇石碑藏置於神社仏閣寶印在々所々寄宿日記信施俗名法名等以為願満供養塔則永劫當不朽如是宿植徳本増長善根則汝等々々皆當作佛豈遠乎故感心餘不忍措如今稱植道宗本初述其意趣云爾

〔裏面〕

願以此功德
普及於一切
我等與衆生
皆共成仏道

※右側面の漢文の書き下し文は次のとおりである。(越谷市宮本町二一

一一七六の鈴木秀俊氏による解説)

武蔵国埼玉郡越箇谷庄齋藤徳「右」衛門は、野嶋村に産れ、而して小曾河郷に住する人なり、当に日域六十六州に納經奉らんと欲して、歳已に久しく、終に止むるに忍びず、宝曆十二壬午「年」暮春、郷を出て遍歴す、南西北中諸國の神社仏閣を順礼して四ヶ「年」、茲に乃ち郷へ

還る、中間の供養を伸ばし、復明和二丙戌「年」三月、奥州に趣き、

坂東を窮めて越年し、丁亥「年」五月に帰郷す、前後六年にして納經を

上畢る、その間一日再宿、厚恩捨財、一鉢の助力は嗚呼幾「何」平、

幸身心堅固、所願満足は皆是三寶の加護を憑み、衆人の慈愛を蒙るなり、

之に依り報恩謝徳の為に彫刻せる這箇石碑藏置、神社仏閣寶印に於いて、

在々所々寄宿日記、信施の俗名法名等を以て願満供養塔と為す、則永劫

當に朽ちず、是の如し、宿植徳本、善根増長す、則、汝等々々皆作仏に

当たり、豈遠乎故、感心の余り措くに忍びず、今の如く植道宗本と称す、

其意趣を初かに述べ、爾云、

時に明和五星舎戊子歳三月下浣 野嶋山浄山禅寺現住寶麟叟之を誌す

(4) 中島家(小曾川二六六) そば共同墓基地

12・鳥八曰の墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 小曾川・中島家(小曾川二六六) そば共同墓基地

共同墓基地内の西側にある中島家(小曾川二三三一一)の墓所

石塔型式 舟型(東南東向き・高さは中)

年 号 元禄十一年(一六九八)

〔正面〕

鵠為涼屋松影信女

元禄十一寅季八月十日

正直氏

中嶋

正直氏

元禄十一寅季八月十日

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

正直氏

される)から由来するとしている。

その他にもさまざまな説があり、いまだにはっきりしていない。

越谷市内での「鳥八日」の例としては、曹洞宗の野島の浄山寺の墓地や同じく曹洞宗の増林の勝林寺の墓地に見られる。

この12の鳥八日の墓塔は、鳥八日が文の中に組み込まれている例である。「鵲」は「鳥が物をついばむ」という意味がある。つまり「鵲」の印は「鳥八日」といわずに、「鳥八日」(ちょうはつきゅう)といふべきだったと思う。

「鵲」は、屍を林の中に捨て、鳥に鵲(ついで)ませて空に帰るとの意味で用いたとの説がある。この説によればこの文は「涼屋松影信女の為に鵲(ついで)む」と読むのであろう。「鳥八日」は印や記号ではなく、風葬を意味する文字(漢字)であることを示している。

以上のことから私見であるが、「鳥八日」は印や記号では決してなく、「鵲」という字であると思われるので、名称は「鵲字(たんじ)」と呼ぶべきであると思うのである。

なお、この墓地にあるもう一つの鳥八日の墓塔を次に紹介する。

◎鳥八日の墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 小曾川・中島家(小曾川二六六)そば共同墓地
石塔型式 舟型(西北西向き・高さは)
年 号 享保四年(一七一九)

〔正面〕

早世 露紅童女幽位
(地藏菩薩立像)

享保四 亥 歳八月念日

※「念」は「廿」のこと。

次に、同じくこの墓地にある五大の梵字付き墓塔を紹介する。

◎五大の梵字付き墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 小曾川・中島家(小曾川二六六)そば共同墓地
石塔型式 板碑型(南々西向き・高さは)
年 号 貞享元年(一六八四)

〔正面〕

貞享元 甲 子二月廿一日入寂

(梵字キヤ・カ・ラ・バ・ア)

為法印了如菩提

(5) 中島家(小曾川三三一) 改路傍

13. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申三一番)
所在地 小曾川・中島家(小曾川三三一)そばT字路
石塔型式 駒型(南向き・高さは中)
年 号 元禄五年(一六九二)

〔正面〕

奉供養庚申講衆現世安楽

(日月) (青面金剛像) (鬼)

小曾川村 願主七人

(三猿)

元禄五 壬 申 年九月今日

※地元では、「さんのう様」(「山王」様のことか)と呼ばれている。
山王様の使いの猿が刻まれている庚申塔があるからであらう。

(6) 藤井家(小曾川四二二) そば墓塔

14. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 小曾川・藤井家(小曾川四二二)そばの墓地
石塔型式 駒型(南東向き・高さは中)
年 号 宝暦四年(一七五四)

〔左側面〕

宝暦四 戌 天十一月吉日

武州小曾川村講中

〔正面〕

(梵字ウーン)(青面金剛像)(二鶏)(鬼)(三猿)

15. 秩父講供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 小曾川・藤井家(小曾川四二二)そばの墓地
石塔型式 上部丸型(南東向き・高さは中)
年 号 安永七年(一七七八)

〔左側面〕

安永七 戌 十月吉日

(観音菩薩立像)

秩父講中供養 小曾川村願主

藤井文左衛門内

※「内」とは「内儀」(妻)のことか。

※森田家(小曾川二五八)北隣路傍に『越谷市金石資料集』馬頭四一番に紹介されている高さ約六十センチの石塔がある。次の通りである。

◎馬頭観音文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭四一番)

所在地 小曾川・森田家(小曾川二五八)北隣堀割りそば路傍
石塔型式 頭部山状角型(西北西向き・高さは中)
年 号 大正七年(一九一八)

[左側面]

大正七年九月二十七日

森田彦太郎建立

[正面]

明治二十五年

馬頭観世一音

八月二十三日

※野口家(小曾川八六一)そばの道路(県道越谷岩槻線)反対側路傍に道陸神(どうろくじん)の祠がある。明治に書かれた「武蔵郡村誌」にも「道祖神(どうろくじん)」との記載が見られる。現在は、祠の中には石仏などは見当たらない。

旧砂原村の石仏

(1) 元荒川土手道

1. 馬頭観音菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 砂原・砂原新橋そば元荒川土手道
石塔型式 駒型(南向き・高さは中)
年 号 宝暦三年(一七五三)

[左側面]

宝暦三 癸酉 天十一月吉日

[正面]

奉供養為如是
(梵字サ) (馬頭観音像)

[右側面]

越ヶ谷領砂原村 坂巻氏

(2) 松沢家(砂原八五〇一)そば路傍

2. 道標付き青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申四六番)
所在地 砂原・松沢家(砂原八五〇一)前の十字路墓地側角地
石塔型式 駒型(西北西向き・高さは高)
年 号 宝永五年(一七〇八)

[左側面]

右ちおんじ道

奉青面金剛供養現當二世所願成就攸

左いわつき道

山崎弥右衛門
飯原清右衛門
竹之内藤四郎
同 藤七
小林 市
松沢 平市
同 安兵衛

[正面]

(日月)(青面金剛像)(鬼)(二鶏)(三猿)
[右側面]

宝永五戊子 天 同行

奉念佛供養現當二世所願圓滿攸

十月吉祥日 廿八

山崎四郎右衛門
竹之内勘右衛門
平野喜三郎
松沢弥右衛門
小林又四郎
同 又八
同 顔七
同 八兵衛

※「龍原」は「海老原」のことか。

※松沢家(砂原八五〇—二) 南側の排水路のある道路は、県道越谷岩槻線ができる前からあった古道であった。

2・3の石仏は共同墓地「越谷メモリアルガーデン」の北の角地に現在は立っているが、前は松沢家前の路傍にあった。

さらに以前は、古道を西に四十メートル進んだ竹内家(砂原八四九)反対側の路傍にあった。ここにも現在の県道方面から竹内家西側脇を通ってこの古道を突っ切っている道があり、この石仏は古道とその道の十字路の角地にあったという。

3・阿弥陀像付き百堂巡礼塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 砂原・松沢家(砂原八五〇—二) 前の十字路墓地側角地
石塔型式 舟型(西北西向き・高さは高)

年 号 寛文二年(一六六二)

〔正面〕

(梵字サ) 奉納百堂成就為二世秀乗也

(梵字セ) (阿 弥 陀 如 来 像)

(梵字サク)

于□寛文二 天七月十四日 砂原村 敬白

同行十二人

※『越谷市金石資料集』掲載の井財天十三番の石塔は所在不明。

※右手は施無畏印、左手は与願印をした阿弥陀如来立像である。右手のあたりが宝珠か錫杖の頭部のように補修されているが、誤りである。

(3) 平野家(砂原七七五) 路傍

4・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 砂原・平野家(砂原七七五)の「平野清掃」前の路傍
石塔型式 駒型(南向き・高さは中)

年 号 享和三年(一八〇三)

〔左側面〕

享和三癸亥年

「台 石」

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (二鶏)(鬼)(三猿)

〔右側面〕

十一月 吉祥日

※楚口家(砂原一〇二—一) 路傍には、北向きの年代不祥の地藏菩薩立像がある。台石からの高さは百四十センチである。

※また、県道越谷岩槻線の平野家(砂原一二四五) 入口前路傍には、高さ五七センチの「馬頭観世音」文字塔(駒型、南東向き、左側面に「昭和七年十月拾四日」と刻まれている)がある。

(4) 久伊豆神社

この久伊豆神社は、砂原村の鎮守である。

5・道標付き猿田彦文字庚申塔(『越谷市金石資料集』猿田彦一番)

所在地 砂原・久伊豆神社入口
石塔型式 頭部山状角柱型(南向き・高さは中)

年 号 明治五年(一八七二)

〔左側面〕

「台 石」

維時明治五 壬 申 霜月吉辰

君か代や 常磐か□ば

かきり□人

しむの

あらむ限りハ

願主 弥左エ門兵 蔵

世話人 富蔵 平蔵

惣右エ門平左エ門

作兵衛多兵衛

喜右エ門源七

弥市藤左エ門

宇右エ門多右エ門

清右エ門三右エ門

忠蔵 久右エ門

源治良 伊兵衛

喜八 清右エ門

新

桐山喜左エ門

同 恵治

同 幸吉

豊田八三郎

金子熊蔵

同 七五郎

朝倉彦八

同 □治郎

平埜 □助

此方 こしがや一り

〔正面〕

惣口六口エ門
同 蔵治郎
同 右エ門
松沢 左エ門
同 蔵

松沢福蔵

同 栄蔵

石(同)浅五郎
口(同)右エ門
勤蔵

猿 田 彦 大 神 いわつき一り

〔右側面〕

〔台 石〕

松沢 重治郎
斎藤 次郎
松沢 治郎
田口 熊治郎
平埜清右エ門
埜口正蔵
山崎嘉右エ門
野口彦右エ門
平埜伊十郎

此方 まくりへ一り
かすかべへ三り

埼玉郡 砂原村

〔裏面〕

〔台 石〕

(表面が、破損して、
解読不能)

世 平
ハ 松沢人右エ門
平野仁右エ門
松沢 同
人 同
エ門

※もとは、近くの県道路傍にあった。県道越谷岩槻線から砂原の久伊豆神社に入る道の角地。現在の砂原一四五七―五の富石家路傍である。

※「越谷市金石資料集」には、明治五年を「明和五年」と誤記されている。「猿田彦神」の解説の中で、市内で一番古い猿田彦の石塔とされているが、誤りである。江戸期の造立ではないが、貴重な石仏なのであえて図入りで紹介した。

6. 青面金剛像庚申塔(「越谷市金石資料集」庚申二一〇番)
所在地 砂原・久伊豆神社参道
石塔型式 頭部山状角型(西向き・高さは中)
年 号 文化二年(一八〇五)

〔左側面〕

〔台 石〕

文化二乙丑十一月吉祥日
是よりこしかや

〔正面〕

平野源兵エ
野口秀悦
同 重蔵
同 周蔵
同 二重蔵
同 長左エ門
同 万平
松沢福蔵
同 茂左エ門
同 勘右エ門

(日月)(青面金剛像)(二鬼)(三猿)

小林弥左エ門
山崎嘉右エ門
会田新左エ門
斎藤源蔵
桐山喜左エ門
いはつき
平野字兵エ
同 吉左エ門
同 七兵エ
同 多吉
同 六右エ門

〔右側面〕

松沢源蔵

是よりしめきり
砂原村講中

同 治左エ門
同 仲右エ門
同 源七
同 豊田清兵エ
同 権左エ門
田口佐吉
浅倉利八
金子甚五良
同 彦八

7. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二八六番）
所在地 砂原・久伊豆神社參道
石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは高）
年 号 嘉永元年（一八四八）

〔左側面〕

岐太神

「台石」
野口安右工門
田口兵左工門
金子寛右工門
斎藤半蔵
松沢栄蔵
野口豊太良
松沢久右工門
平野字左工門
会田文右工門
田口熊次良
同三六
朝倉彦八門
同權左工門
豊田八三良
同文助
桐山喜左工門
山崎加右工門

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

〔右側面〕

砂原
講中
東組

連名
松沢源右工門
同万次良
同三五良
同音次良
同勘六
同久左工門
同元右工門
同平野仁左工門
同伊兵エ助
同同久蔵
同同長八
同同平次良
同野口秀七
同同彦五門
同同寅蔵

嘉永元 戊申年十二月吉日

※「岐太神」は「くなどのおおみかみ」と読み、天孫の道案内をした神。
つまり、猿田彦大神のことである。

8. 天神像（『越谷市金石資料集』天神五番）

所在地 砂原・久伊豆神社境内

石塔型式 祠型（西向き・高さは中）

年 号 天明八年（一七八八）

〔左側面〕 砂原村

〔正面〕

（天神像）

講中

〔右側面〕

天明八年正月吉祥日

※隣に『越谷市金石資料集』の榛名三番の石塔がある。台石を除いた高さは九十五センチ。次の通りである。

◎榛名神社文字石塔（『越谷市金石資料集』榛名三番）

所在地 砂原・久伊豆神社境内

石塔型式 自然石（西向き・高さは）

年 号 明治三十年（一八九七）

〔正面〕

榛名神社

〔裏面〕

壇山の 神の功 あるゆへに

五穀豊熟

祈るひとく

明治三十年

五月奉祀

※この近くの砂原一四九四一六の松沢家路傍に高さ六一センチの井財天文字塔（祠型）と高さ三八センチの稲荷文字塔（角型）がある。

〔右側面〕

(梵字ナニ)

〔裏面(上段)〕

(梵字ナニ)

〔裏面の続き(下段)〕

天明六 丙午四月朔日 ※一七八六年
積應弘善信士

心安良隨信女

〔左側面(上段)〕

(梵字アク)

〔左側面の続き(下段)〕

延享四 丁卯三月十三日 ※一七四七年
陽岳了養信士

歎叟妙喜信女

宝曆六 丙子三月十六日 ※一七五六年

※梵字文は、ノウ・マク(ノ・マク)で始まり、ソワ・カ(サ・カ)で終わっている。「と」は、梵字文の文末につける記号。

(6) 角堂坊墓地

12・六地藏塔(「越谷市金石資料集」に掲載なし)
所在地 砂原・角堂坊の墓地(砂原一四八六の野口家東方にある)
石塔型式 笠付き角柱型(東向き・高さは中)
年 号 天明六年(一七八六)

〔左側面〕

願主 田口磯右エ門

桐山喜左エ門

文政十三寅年

同 文右エ門

同 豊田権左エ門

同 金子利八

二月吉日

同 清左エ門

浅倉彦八

平野□兵エ

〔正面〕

(数珠を持つ地藏立像)

(幡を持つ地藏立像)

〔右側面〕

(破損が激しく、上部は二つの地藏菩薩像が刻まれていると推定できるが、その他は何が刻まれているか不明。)

〔裏面〕

(天蓋を持つ地藏立像)

(柄香炉を持つ地藏立像)

(7) 平野家邸内(砂原一二四五)・非公開

13. 菅公像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 砂原・平野家邸内(砂原一二四五)

石塔型式 駒型(南西向き・高さは中、五〇cm)

年号 文久二年(一八六二)

〔左側面〕

文久二年戊辰十二月造

〔正面〕

(菅原道真公の像)

武州加納光昭寺

〔右側面〕

平埜卯兵エ

同 字三良

同 字八良

※加納の光昭寺は、桶川市の加納にある菅原道真を祀る「加納天神」(氷川天満神社)と縁がある寺院である。

※平野家邸内には他にも幕末や戦前の石仏がある。

◎「弁財天」文字塔(邸内、頭部山状角型、南西向き、高さ四七cm)

〔左側面〕

志□地先祖供養建

〔正面〕

辨財天女□(「神」カ)

〔右側面〕

昭和六年四月

平埜貞之助健之(「建之」の意)

◎主尊不明の石塔(邸内、祠型、南西向き、高さ五〇cm)

左側面には「嘉永三年戊二月二十二日」、

右側面は「願主 平埜宇左エ門、性同 初五良」(性は姓の意)

◎「馬頭観世音」文字塔(平野家入口、駒型、南東向き、高さ五七cm)

石塔型式 駒型(南西向き・高さ五七センチ)

〔左側面〕

昭和七年十月拾四日

〔正面〕

馬頭観世音

次に、この地域の歴史の解明には欠かせない平野家について触れる。

※平野家は江戸時代以前に関西方面から逃れてきて土着したという

豊臣家落武者伝説がある。

※平野家墓所には江戸時代初期の万治三年(一六六〇)五月十九日の墓

塔、さらに明治二十五年に作られた平野家歴史が刻まれた墓誌がある。

※黒住教は、岡山市今村宮の神官、黒住宗忠が江戸時代に開いた教派神

道で、幕末に開かれた天理教、金光教と共に幕末三大新宗教の一つ。

※平野家の周りにあった構え堀の名残が今でも残っている格式のある

家柄であった。

※平野家そばの昔の道路は今と違って末田用水に沿い、途中から離れて

現在の砂原一〇七四の山崎酒店脇に向かっていた。平野家では、その

末田用水そばに屋敷に入る入口があつて、そこから屋敷内に入って母

屋の玄関に通じる直線の通路(地元では「かいどう」と呼ばれる)が

あつたが、昭和の初めころに、東西の新道(現在の県道)が通路を横

切つてできたために敷地内が分断された。平野家は入口のある末田用

水から奥に母屋があつたので屋号を「奥のうち」と呼ばれたという。

※平野家邸内の稲荷社を祀る屋敷神には、かつては周辺の村々からの

参拝人で賑わいを見せた。

※終戦間際に作られた俗称「荻島飛行場」(新和飛行場・論田飛行場とも

呼ばれた)のために平野家の農地が失われ、さらに戦後の農地改革で

多くの農地を失った。

※平野家の茅葺屋根の茅の材料は、かつては平野家裏の元荒川の河川敷

で採れた。

旧荻島村の石仏

現在、この地域は「南荻島」と「南」を付けて呼んでいる。江戸時代は「荻島村」と呼んでいた。明治十二年（一八七九）に行われた郡制に当たり、郡内に同一の村名がある場合はその区別がつかず紛らわしいということから、荻島村も郡内（南埼玉郡）の北にある荻島村は「北荻島村」に、南にある荻島村は「南荻島村」と名付けられた。そして以後こう呼ばれるようになったのである。

同様に、荻島村の南東にある「後谷村」も「北後谷村」となった。

(1) △云田家（南荻島八六）個人墓地

1. 光明真言曼陀羅塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 荻島・堤根バス停西側奥の会田家個人墓地
石塔型式 駒型（南向き・高さは高）
年 号 元禄十二年（一六九九）

〔正面〕

元禄十二 己卯天

（光明真言曼陀羅）松林妙壽禪定尼

八月初五日

(2) △云田家（南荻島八七）路傍

2. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 荻島・堤根バス停東側奥の会田家（南荻島八七）路傍
石塔型式 頭部山状角型（南向き・高さは中）
年 号 天保十二年（一八四一）

〔左側面〕

天保十二丑年五月吉日

〔正面〕

〔日月〕庚申塔

〔右側面〕

会田氏

(3) 稲荷神社参道入口

元荒川土手にある五社稲荷神社の参道入口に祠の中に納められている新しい石塔とその古い石塔がある。さらに「稲」（稲荷の稲）と刻まれた駒型の石塔の一部もある。

3. 「川水神」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 荻島・五社稲荷神社参道入口（元荒川土手）
石塔型式 不明（西向き・高さは低、幅は二四センチ）
年 号 天保三年（一八三二）

〔正面〕

（神）

※この石塔は、「水神宮」と刻まれた新しい石塔（高さ五九センチの自然石）のすぐ裏に安置されている。残念ながら破損が激しく、大きく修復され、本来の原型をとどめていない。新しい石塔は、この古い石塔の代わりとして造立され、古い石塔のすぐ前に置かれたものである。古い石塔については、「越谷ふるさと散歩（上）」（昭和五十四年、越谷市役所市史編さん室本間清利氏執筆）一七二ページには、天保三年の「川水神」として紹介されている。

※なお、この石塔の反対側の参道入口路傍には、高さ約四八センチ（台石の高さは除く）の年代不詳の石塔がある。

表面には「御敬連中、願主、内藤久蔵」、左側面には「越ヶ谷、石工長兵衛」と刻まれている。

(4) 稲荷神社

江戸時代は、荻島村の鎮守であった。現在は、荻島村内の五社をここに合祀して、神社名を「五社稲荷神社」と改めている。

ここに力石が三基ほどある。その中の一つに、「弘化四年」の年号と「当村 伊之助」の名が刻まれている。

4. 「大祓」文字塔（『越谷市金石資料集』その他一六番）

所在地 荻島・五社稲荷神社本殿わき（本殿向かって左隅）

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは高）

年 号 不詳

〔正面〕

天下泰平

奉 一 万度中臣太祓

国家安全

※大祓とは、神社で六月と十二月の晦日（みそか）に、万民の罪やけがれを祓った神事。「中臣（なかとみ）の祓」ともいう。

※本殿向かって右隅に、高さ約一四九センチの「浅間大神」と刻まれた自然石の石塔（『越谷市金石資料集』浅間二番）がある。裏には「◎」「萩島邸 先達」「島村善右エ門」「教會講社」「東京 石工群 願書」「明治九年三月吉日」と刻まれている。

5・「天満宮」文字塔（『越谷市金石資料集』天神一一番）所在地 萩島・五社稲荷神社本殿わきの「天満宮」祠石塔型式 祠型（東向き・高さは中）年 号 天保九年（一八三八）

〔左側面〕
天保九戌十二月吉日
〔正面〕

「台 石」

会田周蔵
大熊徳治良
同
会田八五郎
大熊□吉
内□（藤）□（幸）蔵
大熊富蔵
会田佐吉
石井若五良 ※「若」は「岩」と同じか
川上ちい
会田せん
小川儀三良
会田栄蔵
川上寅蔵
嶋村喜治良
小嶋□治良

天 満 宮

6・「小御嶽大神」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 萩島・五社稲荷神社本殿わきの「小御嶽神社」祠石塔型式 自然石（東向き・高さは低）年 号 不詳

〔正面〕
小御嶽大神

※小御嶽大神とは、富士山の五合目にある小御嶽神社の神をさし、富士山頂の浅間大神（コナハナサクヤヒメ）の妹のイワナガヒメである。

7・主尊不明文字塔（『越谷市金石資料集』天神二番）所在地 萩島・五社稲荷神社本殿裏の「抱齋神」祠石塔型式 祠型（南向き・高さは中）年 号 寛保二年（一七四二）

〔正面〕

（不 明）

〔右側面〕

寛保二 壬戌 □ 天十二月吉日

※地元では、「抱齋神」の石塔とされているが、『越谷市金石資料集』の天神二番に掲載されている「天満宮」石塔（寛保二年「一七四二」十二月）と石塔の大きさから考えて推定できる。

8・猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦一六番）所在地 萩島・五社稲荷神社本殿裏石塔型式 頭部山状角型（南向き・高さは中）年 号 安政六年（一八五九）

〔左側面〕

維時 安政六 己未 年三月吉日

〔正面〕

（目）猿 田 彦 大 神

秋海堂謹書

〔右側面〕

世話人

萩嶋邑野中組講中

小川吉右エ門
会田要助

（5）中島家（南萩島二一〇）そば出津地

四号バイパスの元荒川橋から県道浦和越谷線の文教大学バス停にかけて、南北に平行に走っている「土手道」と俗に呼ばれる道がある。この土手道を境に西側が堤根（つつみね）、東側（元荒川側）が出津（出洲、でず）とよばれている。出津は、かつての元荒川の河川敷であった名残の地域である。現在は文教大学や住宅が建ち並んでいる。

石仏石塔は、中島家（南萩島二一〇）そばの土手道から東側に降りた

出津側にある。この場所を地元では三猿が刻まれた庚申塔があるために「山王(さんおう)様」と呼んでいる。猿は山王神社の使いともされている。

9・三猿庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申七番)

所在地 荻島・中島家(南荻島二一〇)そば土手道下の出州地
石塔型式 笠付角型(南向き・高さは超高)
年 号 寛文九年(一六六九)

〔正面〕

(日) 寛文九 己酉年

結束

武州埼玉郡荻嶋村

(寛字三) 奉造立庚申供二世安楽攸 (三猿)

(月) 三月吉祥日

敬白

大熊九郎右門
石井七右エ門
大熊吉左衛門
松原半右エ門
鈴木儀左衛門
会田与左衛門
同 儀九右エ門
山崎八左衛門

10・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申一六七番)

所在地 荻島・中島家(南荻島二一〇)そば土手道下の出州地
石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)
年 号 天明五年(一七八五)

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (鬼)

世話人

堤根 中

同 会田 平六

新井佐右エ門

〔左側面〕

天明五 乙巳十一月吉日

11・「井財天」文字塔(『越谷市金石資料集』井天五番)

所在地 荻島・中島家(南荻島二一〇)そば土手道下の出州地
石塔型式 祠型(南向き・高さは中)
年 号 寛政十年(一七九八)

〔左側面〕

寛政十 戊午十一月

〔正面〕

大黒 □(天)

辨財天

毘沙門天

〔右側面〕

當 □(村講中)

世話人内藤 □

※この地には、他に次の二基の石仏・石塔がある。

◎馬頭観音菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・中島家(南荻島二一〇)そば土手道下の出州地
石塔型式 舟型(南向き・高さは高) (高さ約一三二センチ)
年 号 大正三年(一九一四)

〔正面〕

〔台石〕

(馬頭観音菩薩像)

同 □ 者 志 有

〔右側面〕

大正三年十一月十八日

南埼玉郡荻島村

牛馬商 大塚久七建之

◎「井財天」文字塔(『越谷市金石資料集』井天一〇番)

所在地 荻島・中島家(南荻島二一〇)そば土手道下の出州地
石塔型式 駒型(南向き・高さは低) (高さ約四三センチ)
年 号 明治十五年(一八八二)

〔正面〕

辨才天

〔右側面〕

明治十五年二月

(6) 大熊家(南荻島三八五六)土手道路傍

12・道標石塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・大熊家(南荻島三八五六)土手道路傍
石塔型式 角型(西向き・高さは中)
年 号 安永十年(一七八一)

〔左側面〕

(右) (七) □ おんじ三〇

〔正面〕

安永十丑 大熊

むかうこしかや

□ 月吉日 舩右衛門

〔右側面〕

左のしま地蔵

廿八丁

※「舩」は「升」の俗字

※「右 慈恵寺、向こう越ヶ谷、左 野島地蔵」と道しるべが刻まれている。

(7) 玉泉院

玉泉院の入口を入って右側に高さ三二〇センチの円柱形の標識石塔がある。表には「新四国八十八ヶ所第三十二番 玉泉院」と、裏側には「明治廿一年四月建立」と刻まれている。玉泉院は、武蔵国八十八箇所(弘法大師霊場)の一つで、三十二番目にあたるのである。

武蔵国八十八箇所巡礼は、一番の西新井大師(足立区西新井)から始まり、南足立郡、北足立郡、南埼玉郡の三郡に及んだ。明治十七年頃より「三郡送り大師」と呼ばれるようになる。

13・一石六地藏菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・玉泉院境内

石塔型式 駒型(南向き・高さは高)

年 号 元禄五年(一六九二)

〔正面〕

元禄五 壬申年

施主

(天蓋を持つ) (数珠を持つ) (香炉を持つ)

(梵字力) 奉供養六地藏為法印尊□(線)菩提

(幡を持つ) (蓮を持つ) (合掌する)

三月吉良日

欽白

※中央の文の一番下の文字は、一字で「菩提」と読む。

14・六地藏像付き六十六部廻国塔(『越谷市金石資料集』六十六部一六番)

所在地 荻島・玉泉院境内

石塔型式 笠付角柱型(南向き・高さは高)

年 号 明和七年(一七七〇)

〔左側面〕

(柄香炉を持つ)

(幡を持つ地蔵)

(柄香炉を持つ)

二郷半領坂井木村七郎右門
道時信士 享保十四酉
十二月八日 内藤

百番供養

およし
おふじ

(幡を持つ地蔵)

一切精霊

矢部茂右衛門

〔正面〕

天下和順 六十六部

直道法師 延享四卯
十二月廿六日

奉 (合掌する地藏像)

妙本信女 宝暦八寅
七月十九日

大乗妙典 妙仙清信女 寛保二戌
三月廿三日

法華經一千部

納 (宝珠を持つ地蔵)

尚運法師

日月清明 日本回国供養 越ヶ谷領荻嶋村矢部定七行者

〔右側面〕

(錫杖と宝珠を持つ) 明和七 庚寅

(天蓋を持つ地蔵) 十月吉日

15・光明真言曼陀羅塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・玉泉院境内

石塔型式 舟型様上部丸型(東向き・高さは高)

年 号 宝永三年(一七〇六)

〔正面〕

堤子組

奉供養光明真言十万遍依

(光明真言曼陀羅) 施主敬白

宝永三 丙 歲九月吉祥日

四十四人

※『堤子組』の「堤子」は「つつみね」と読み、「堤根」のこと。

(8) △云田家 (南荻島三六五) 個人墓基地

16・六地藏塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・会田家 (南荻島三六五) 北東側の会田家個人墓
石塔型式 笠付角柱型 (南東向き・高さは中)

年 号 宝暦七年 (一七五七)

〔左側面〕

(天蓋を持つ地藏)

妙観信女

妙信近事女

寛光信士

(幡を持つ地藏)

〔正面〕

宝暦七丁丑

浄林清信士

妙空信女

道林信士

秋覚信女

夏薫信女

妙印清信女

知空沙弥尼

施主

不岸乗舟士

弘智童子

妙圓童子

靈

(合掌する地藏)

※この石仏のすぐそばに、高さ五三センチの馬頭観音文字塔 (駒型) が

ある。表面には、「大正五年、馬頭観世音、九月廿四日」、左側面

には、「大正五年十月、会田浅吉建之」と刻まれている。

(9) 野△口白△治△云館 (馬頭院跡地)

荻島村の一部は、ここ元荒川の左岸にもある。元荒川はかつては袋山村を取り囲むようにして曲流していて、荻島村と袋山村とは陸続きであった。しかし、元荒川が真っすぐに流れるようになると、宝永三(一七〇六)・四年頃に荻島村北部 (野合「のあい」) に新川を作り、荻島村の一部が新川によって分断されたのである。荻島村野合は俗に締切(しめきり)とも呼び、内野合 (元荒川右岸) と外野合 (左岸) とに分かれた。現在の締切橋の両岸の地域である。

元荒川左岸の野合の地の野合自治会館に墓地がみられる。これは、明治に作られた「武蔵国郡村誌」に「馬頭院廃跡、外野合 (そとのあい) がありしが、明治六年廃寺」と記載されていることから、「馬頭院」と呼ばれる寺院跡の墓地と思われる。

また、現在ここに力石が三基程ある。

17・地藏菩薩像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・野合自治会館

石塔型式 舟型 (北東向き・高さは中)

年 号 不詳

〔正面〕

(梵字力) (地藏菩薩立像)

施主 会田弥五左エ門

新趣善美

講中式十人

沙門

18・文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・野合自治会館

石塔型式 駒型 (北西向き・高さは中)

年 号 享和元年 (一八〇一)

〔左側面〕

享和元 辛酉 十一月吉日

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

19・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野合自治会館

石塔型式 駒型（北西向き・高さは中）

年 号 文化八年（一八一二）

〔左側面〕

文化八 辛 末年四月吉日

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

天下泰平国土安全

20・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野合自治会館

石塔型式 駒型（北西向き・高さは中）

年 号 文政七年（一八二四）

〔左側面〕

文政七 甲 申年十月吉祥日

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

〔台 石〕
栗原有右工門
同・仁兵衛
会田富右工門
石井久蔵
栗原弥三郎
石井弥兵衛
同 金蔵
会田政右工門
石井音右工門
竹内喜八

〔台 石〕
会田平右工門
会田伝兵工
長嶋弥五右工門
遠藤儀兵工
長嶋藤左工門
竹内□（善）八
長嶋由右工門
石井金蔵
石井源八
関根久右工門
栗原弥平太

21・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野合自治会館

石塔型式 角型様特殊型（北西向き・高さは中）

年 号 享保二年（一七一七）

〔左側面〕

□体
会田弥五左衛門
長嶋太郎右衛門
会田与四右衛門
石井三右衛門
（梵字ウーン）奉供養庚申待講結束二世安穩攸

〔正面〕

（青面金剛像）（二鶏）（三猿）

〔台 石〕
誰講
野△日組
中

〔右側面〕

桃木豊右衛門
竹内藤兵衛
石井弥三郎
鈴木庄左衛門
栗原弥兵衛
享保二 丁 酉 天二月吉日

22・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野合自治会館

石塔型式 頭部山状角型（北西向き・高さは中）

年 号 安永八年（一七七九）

〔左側面〕

安永 八 己 亥 歳

会田富右工門
長嶋弥助
栗原伊兵工
栗原直右工門
河上治良右工門
細沼良右工門
本間弥右工門
桃木文蔵
竹内利兵工

〔正面〕

〔台石〕

(日月)青面金剛(二鶏)(三猿)

〔右側面〕

十一月吉祥日

23・六地藏塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 荻島・野合自治会館
石塔型式 頭部山状角柱型(北西向き・高さは中)
年号 不詳

〔左側面〕

(天蓋を持つ地藏立像)
(宝珠を持つ地藏立像)
〔正面〕

(宝珠と錫杖を持つ地藏立像)
(合掌している地藏立像)
〔右側面〕
(幡を持つ地藏立像)
(数珠を持つ地藏立像)

竹内喜六	桃木兵右衛門	本間久右衛門	関根久右衛門	鈴木半右衛門	細沼政右衛門	川上政右衛門	栗原市右衛門	同文次	同仁兵衛	同長嶋安右衛門	同藤右衛門	同長嶋弥三郎	同栗原平七	同石井源八	同本間清右衛門	長嶋六右衛門	竹内喜八	竹内弥兵衛	金次
------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-----	------	---------	-------	--------	-------	-------	---------	--------	------	-------	----

24・「第六天」文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 荻島・野合自治会館
石塔型式 角型(北西向き・高さは低)
年号 享保三年(一七一八)

〔左側面〕

享保三戌 天九月吉日
惣施主中諸願成就

〔正面〕

第十八天神

(10) 野中自治会館(西藏院跡地)

この地は、かつては「西藏院」と呼ばれた寺院があった所である。地元では、「せいぞういん」と呼んでいる。正しくは「さいぞういん」と呼ぶのであろう。

25・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 荻島・野中自治会館そば墓地
石塔型式 駒型(南向き・高さは中)
年号 不詳

〔正面〕

(日月)(青面金剛像)(二鶏)(鬼)(三猿)

26・三猿庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 荻島・野中自治会館そば墓地
石塔型式 駒型(南向き・高さは中)
年号 延宝九年(一六八二)

〔正面〕

延宝九辛酉年 祈
(梵字ウー)奉供養庚申講結束二世安楽 (三猿)

十月吉祥日

27.「雷電宮」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野中自治会館そば墓地

石塔型式 角型（南向き・高さは低）

年 号 安政三年（一八五六）

〔左側面〕

安政三〇年九月吉日

〔正面〕

雷電 宮

※このそばに会田家（南荻島二六九六）所有の大きな石塔がある。
◎宝篋印塔様石塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野中自治会館前

石塔型式 宝篋印塔様特殊型（南向き・高さは超高）

年 号 明治廿五年（一八九二）

〔左側面〕

大正十四年十月十日

慶 翁 寿 道信 士

（梵字キリク）

穉 月 賢 容信 女

大正九月十月九日

〔正面〕

明治廿五年辰二月廿七日

長 倫 正道 清信 士

蓮 乘 妙 順 清信 女

（梵字アク）

〔右側面〕

享保十四年十月十日

奉供養六十六部満願成就

願主直入法師

釈 教 順 俗名飯田長吉

（梵字ウン）

尼 妙 教 同 ぶん

性 阿 栄 寿信 女

頓 覺 浄 空信 士

権大僧都作法印観長

祐 涼 義 観信 士

直岳法黨居士

潭 月 智 清 禅定 尼

浄 覚 本 阿清信 士

青 蓮 妙 実信 女

（梵字タラーク）

〔台石〕
蔵 長 田 △云

※本来なら、梵字ウンが東向き、梵字タラークが南向き、梵字キリクが西向き、梵字アクが北向きとなる。西蔵院境内地の他所から移転するときに北側の正面を南側にしたのであろう。

28. 疱瘡神供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野中自治会館前（薬師堂の前）

石塔型式 駒型（南向き・高さは中）

年 号 文久二年（一八六二）

〔左側面〕

文久二年

戌八月吉辰

〔正面〕

疱瘡神

〔右側面〕

願主

会田要助

29. 丸彫り地藏菩薩座像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・野中自治会館そば墓地

石塔型式 丸彫り型（東向き・高さは中）

年 号 寛保三年（一七四三）

〔左側面〕

寛保三 癸 十一月初八日 ※初八日は八日のこと。

〔正面〕

権大僧都法印観長

（地藏菩薩座像）法界衆生為二世安樂也

慶 尊 比丘 尼

30. 猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦二番）

所在地 荻島・野中自治会館の南東角地路傍

石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは高）

年 号 天保四年（一八三三）

〔左側面〕

天保四 癸 巳 年霜月吉日

左

まくり

か□（す）かへ

〔正面〕

(日月) 猿田彦大神

〔右側面〕

武州埼玉郡越ヶ谷領

萩嶋村

願主 野中組連中

右 かきあげ
大もん
はとかや
左 こし
かや

右 のしま
いわつき

石工小嶋長兵衛

31. 六地藏塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 萩島・野中自治会館そば東側墓地

石塔型式 笠付角型(南向き・高さは超高)

年号 寛政十年(一七九八)

〔左側面〕

(数珠を持つ地藏立像)

(幡を持つ地藏立像)

〔正面〕

寛政十戊午十月吉日

〔台石〕

萩嶋村 萩嶋

(錫杖を持つ地藏立像)

(香炉を持つ地藏立像)

野中組
願主むす
惣講中拾三之
人

〔右側面〕

(天蓋を持つ地藏立像)

(合掌する地藏立像)

(11) 中組集会所(明王院跡地)

ここは、「明王院」と呼ばれた寺院跡地。地元ではなまって「みょうごいん」と呼んでいる。本尊は不動明王。集会所の西隣にあるお堂には、不動明王像が二体安置されている。本堂から移されてきたものと言われている。うち一体は破損はしているが、頭髮が沙髻(しゃけい)と呼ばれる花形の髻(もとどり)をしているので、不動明王像とわかる。

明王院の本堂や庫裏の跡地は、現在は近くの住宅地(南萩島一四二三の住宅地内の北東部)となっているという。

なお、毎年四月十日には、ここ中組集会所で「十日念仏(お姫念仏)」と呼ばれる念仏講が高齢の女性たちによって鉦と太鼓で行われる。かつては、日が昇る頃(明け六)から始まり、日が沈む頃(暮れ六)まで念仏が唱え続けられていたという。

32. 道標付き猿田彦文字庚申塔(『越谷市金石資料集』猿田彦三番)

所在地 萩島・中組集会所

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

年号 文化六年(一八〇九)

〔左側面〕

奉

中臣祓一万度三種大祓拾萬度

献

嶋村定右衛門

〔正面〕

萩嶋村講中

萩嶋

豊田久左門

嶋村定右門

同 藤吉

同 善右門

会田秀蔵

同 要蔵

小嶋佐平次

同 源右門

同 伊七

松沢藤左門

豊田安左門

桃木茂左門

〔右側面〕

南嶋ヶ谷道

于時文化六己巳 歳二月大吉日

北岩槻道

33. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申四三番)

所在地 萩島・中組集会所

石塔型式 舟型(東向き・高さは高)

年号 宝永四年(一七〇七)

〔正面〕

宝永四丁亥年

施主発心

豊田庄五良

伊沢次兵衛

大熊源兵衛

新井平三良

同名

(初瀬川)金兵衛

小嶋平兵衛

嶋村佐五右門

(日月) 青面金剛像 (鬼) (三猿)

九月吉祥日

34. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申一〇六番）

所在地 荻島・中組集会所

石塔型式 笠月角型（東向き・高さは高）

年号 延享二年（一七四五）

〔左側面〕

明王院 荒井平八郎

小田十良右エ門 同 藤八郎

豊田久左エ門 松沢□左エ門

嶋村喜平□（次） 豊田喜兵衛

同 源七郎 □右左エ門

小嶋□十郎 桃木茂左エ門

同 □右エ門

延享二乙丑年二月吉日

〔正面〕

〔日月〕（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

〔右側面〕

玄心 松沢藤助

浄入 豊田藤四郎

会田彦右エ門 井沢藤七郎

嶋村弥久右エ門 同 甚五兵衛

小嶋磯右エ門 豊田弥右エ門

大熊源左門 桃木平右エ門

井沢市左門 大塚弥兵衛

35. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申五一番）

所在地 荻島・中組集会所

石塔型式 笠付角型（東向き・高さは高）

年号 正徳三年（一七一三）

〔左側面〕

奉造立庚講所願成就攸

〔正面〕

桃木義右エ門

同 太郎右エ門

同 彦七

伊沢四郎兵へ

同 四郎左エ門

同 四郎右エ門

豊田甚右エ門

大熊清兵へ

（日月）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

小嶋権左エ門

〔右側面〕

正徳三癸巳天九月吉日

36. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申一八一番）

所在地 荻島・中組集会所

石塔型式 駒型（東向き・高さは中）

年号 寛政七年（一七九五）

〔左側面〕

寛政七乙卯歲二月吉日

〔正面〕

〔台石〕

嶋村善右衛門

小嶋久右衛門

同 伊七郎

同 孫左衛門

松沢藤左衛門

豊田藤右衛門

小田善兵衛

伊沢茂左衛門

同 伊右衛門

豊田弥右衛門

桃木源内

〔右側面〕

萩嶋村

※萩Ⅱ萩

（12） 松卸木家（南荻島一三八二） 吹上傍

37. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・鈴木家（南荻島一三八二）路傍

石塔型式 駒型（東南東向き・高さは高）

年号 寛政二年（一七九〇）

〔左側面〕

寛政二戌十一月吉日

〔正面〕

〔世ハ〕 台石

鈴木治兵衛

□人 大塚宇右エ門

同 甚五右エ門
同 半兵へ
大塚伊右エ門
嶋村平四郎
同 午之□
施主宛心
敬白

(日月)(青面金剛像)(二鶏)(鬼)(三猿)

鈴木治左エ門
同 清左エ門
豊田久左エ門
川上与右エ門
同 新藏
同 喜右エ門
松沢久兵衛
大塚全左エ門
会田佐右エ門
同 久左エ門
同 藤左エ門
大熊重右エ門
根岸伊兵衛
大熊清左エ門
根岸清右エ門
嶋村久右エ門

(13) 根岸家(南萩島一一四五)西側路傍

38. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 萩島・根岸家(南萩島一一四五)西側路傍
石塔型式 頭部山状角型(西南西向き・高さは中)
年 号 寛政三年(一七九一)

〔左側面〕

于時寛政三 辛亥 二月吉祥日

〔正面〕

(日月)(梵字ウーン) 青面金剛

〔台石〕
(三猿)

〔右側面〕

奉供養意趣者百甲 石崎多右衛門
由参詣為二世安樂也

※この近くにある根岸家(萩島一一七〇)邸内に、高さが六二センチの文字庚申塔(頭部山状角型)がある。左側面には「昭和六年四月之建」、右側面には「根岸龜藏」等の文字が刻まれている。

(14) 「ひやみず」 共同墓地

大熊家(南萩島一二七一)そばの末田大用水路反対側の「冷や水」と呼ばれている地に共同墓地や石仏を祀っている建物がある。また、近く路傍にも二基の石仏がある。

39. 一石六地藏菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 萩島・「ひやみず」共同墓地脇のお堂
石塔型式 駒型(東向き・高さは高)
年 号 正徳二年(一七一一)

〔正面〕

念仏講施主頭妙仙同行三拾二人

〔台石〕

(合掌する地藏) (宝珠と錫杖を持つ地藏)

(香炉を持つ地藏) (天蓋を持つ地藏)

(両手を組む地藏) (幡を持つ地藏)

正徳二 壬辰 天霜月吉日

40. 観音像付き念仏供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 萩島・「ひやみず」共同墓地脇のお堂
石塔型式 舟型(東向き・高さは高)
年 号 寛文五年(一六六五)

〔正面〕

念仏講道行廿五人

(観音菩薩像)

寛文五 乙巳 年十月十一日

※この墓地に舟型の「道標付き観音像」がある。高さは60センチである。正面には浮き彫りの観音像があり、その両脇に「右水神道」(向かって右側)、「左御嶽みち」(向かって左側)と刻まれている。道標の地名からして昔からこの地にあったとは思えない。年代は刻まれていない。

41. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申一五八番)

所在地 萩島・「ひやみず」共同墓地近くの路傍
石塔型式 駒型(東向き・高さは高)
年 号 天明元年(一七八一)

〔左側面〕

天明元 辛丑 十一月吉祥日

〔正面〕

井秋島村 萩萩

〔台石〕

(日月)(青面金剛像)(鬼)(二鶏)(三猿)

金子喜左エ門
会田藤右エ門
同 文左エ門
同 佐兵衛
川上新藏
同 熊次郎
同 与右エ門
同 岩次郎
大塚金左エ門
同 宇右エ門

〔右側面〕

松沢久兵衛
石崎太右エ門
鈴木次兵衛
同 孫右エ門
同 三右エ門
根岸伊兵衛

〔台石〕

同 清右エ門
大熊清左エ門
同 重右エ門
同 兵右エ門
根岸金兵衛
桃木平兵衛
嶋村定右エ門
越ヶ谷本町源八

42. 百八十八箇所巡礼塔（『越谷市金石資料集』諸国回國四番）
所在地 荻島・「ひやみず」共同墓地近くの路傍
石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは中）
年 号 寛政十年（一七九八）

〔正面〕

〔台石〕

施主・

寛政十戊午歳

願主

鈴木嘉兵衛

（梵字サ）

（梵字キリシ）奉供養 西国四国為二世安楽

（梵字サ）

秩父坂東

川上喜左衛門

霜月吉祥日

敬白

大塚宇右衛門

大熊清左衛門

※阿弥陀三尊の梵字のうち、観音（サ）、勢至（サク）の位置が左右逆である。

43. 光明真言曼荼羅塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 荻島・玉泉院（墓地入口）

石塔型式 上部隅丸角型（東向き・高さは中）

年 号 明和八年（一七七七）

〔正面〕

明和八年卯 施主

（光明真言曼荼羅） 為先祖菩提

九月吉辰日 大熊久右門

旧後谷村の石仏

（1）根郷の稻荷神社

こは、根郷（ねこう）と呼ばれる小字（こあき）の地域で、かつては本村の中心であったことを意味している。

1. 「稻荷大明神」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 後谷・根郷の稻荷神社

石塔型式 角型（北東向き・高さは低）

年 号 文政十一年（一八二八）

〔左側面〕

文政十戊子九月吉日

〔正面〕

（稻荷大明神）

（2）根郷自治会館

こは、もとは光明院と呼ばれる寺院があった跡地である。

2. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二〇三番）

所在地 後谷・根郷自治会館

石塔型式 駒型（北東向き・高さは中）

年 号 寛政十二年（一八〇〇）

〔左側面〕

庚寅十二年

申十一月吉祥日

〔正面〕

（日月）青面金剛（三猿）

〔台石〕
※摩滅が激しく、
解説が不能。
十四行にわたって
名前が刻まれている。

〔右側面〕

〔台石〕

（谷）

石工長兵衛

3・普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品一〇番）
所在地 後谷・根郷自治会館

石塔型式 頭部山状角型（北東向き・高さは中）
年 号 寛政十二年（一八〇〇）

〔左側面〕

村内安全後谷村
五穀成就

〔正面〕

〔台石〕

（梵字サ）普門品二万巻供養

櫻井長右衛門
堀井□（藤々）兵衛
講中
堀井太右衛門
鈴木治兵衛

〔右側面〕

寛政十二歳

申 十一月吉日

4・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申三三番）

所在地 後谷・根郷自治会館
石塔型式 頭部山状角型（北東向き・高さは中）
年 号 正徳四（一七一四）

〔正面〕

〔台石〕

（青面金剛像）（鬼）（三猿）

正徳四年

十一月吉日

〔右側面〕

（梵字ウーン）奉造立庚申供養石塔講中現當二世安
樂 攸

※腕の数が十本もある青面金剛の庚申塔である。十本もあるのは非常に珍しい。

5・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申三九番）

所在地 後谷・根郷自治会館
石塔型式 上部破損のため不明（北東向き・高さは中）
年 号 嘉永三年（一八五〇）

〔左側面〕

嘉永三 庚戌十月吉日

〔正面〕

〔台石〕

（日月）（青面金剛像）（二鬼）（三猿）

葛貫佑右衛門
鈴木治兵衛
高橋弥七
平川弥三良
講中
齊藤傳六
鈴木瀧右衛門
須賀義右衛門
主 願 桜井長右衛門

※「金石資料集」の三九番では、年号が「元禄」と記載されている。
「嘉永」の誤りであろう。

※鬼は普通は一鬼であるが、二鬼は珍しい。
また、三猿のうち向かって右端の「見ざる」は、親猿の上に肩車をしてもらっている子猿が、その親猿の目を手でおおっている様子が描かれていてこれも珍しい。

6・六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 後谷・根郷自治会館そば墓地（道路側桜井家墓所）
石塔型式 頭部山状角型（北西向き・高さは中）
年 号 享和二年（一八〇二）

〔正面〕

寛政十二年八月廿七日

観空淨月信女

日本回国供養塔

須賀靈智法子

享和二年六月廿四日

7・百観音巡礼塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 後谷・根郷自治会館そば墓地（西側）
石塔型式 頭部山状型（北東向き・高さは中）
年 号 天保七年（一八三六）

〔正面〕

天保七申十一月三日

安齋浄楽信士

(梵字サ) 西国秩父坂東為二世安楽焉

霜譽慈空信女

文政六癸未十二月六日

(3) 北前の稻荷神社

〔北前〕とは、北後谷前谷(まへや)の略称である。この地は、かつては後谷村の「前谷」と呼ばれていた所である。

8・出羽三山供養塔(『越谷市金石資料集』出羽三山五番)

所在地 後谷・北前の稻荷神社

石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは高)

年号 文化九年(一八一二)

〔左側面〕

文化九年八月吉日

天下泰平五穀成就

〔台石〕

四丁野村講中

西新井村講中

〔台石〕

世話 堀井甚五右エ門

人話 同 吉左エ門

講頭 高橋吉右エ門

講 平川幸蔵

堀井茂兵エ

才藤孫助

高橋源右エ門

才藤文蔵

同 佐野右エ門

堀井茂右エ門

田村武右エ門

同 直右エ門

神 明 村下

(目) 羽黒

湯殿山供養塔

(月) 月山

〔右側面〕

〔台石〕

埼玉郡越ヶ谷領後谷村

大先達 大乗院

9・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申二三〇番)

所在地 後谷・北前の稻荷神社

石塔型式 駒型(南向き・高さは中)

年号 寛政四年(一七九二)

〔左側面〕

寛政四子歳八月吉日

〔正面〕

〔台石〕

堀井茂兵衛

同 治良兵衛

同 太右衛門

同 喜右エ門

同 金左エ門

同 伊右エ門

同 〇右エ門

同 弥左エ門

同 清右エ門

同 杉右エ門

同 〇右エ門

同 高橋吉右エ門

同 惣左エ門

同 仲右エ門

同 忠右エ門

(日月) 青面金剛像(二鶏)(鬼)(三猿)

※『越谷市金石資料集』庚申二三〇番は、「文化九年八月」と記載されているが、これは隣の出羽三山文字塔に刻まれた年号である。

〔右側面〕

10・不動明王三尊像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 後谷・北前の稲荷神社にある祠

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）

年 号 嘉永四年（一八五二）

〔左側面〕

〔台 石〕

草加宿

石工青木宗政

埼玉郡

越谷領

後谷村

天下泰平

嘉永四 辛 年仲秋日

村内安全

齊藤 子与治
鈴木 幸治良

〔正面〕

〔台 石〕

願主

齊藤 孫市

堀井 茂兵衛

堀井 長右衛門

鈴木 治平

堀井 伊右衛門

同 弥左衛門

同 市左衛門

須賀 万五良

同 佐左衛門

桜井 清治良

平川 金右衛門

同 留治良

鈴木 音治良

同 太喜平

同 良助

高橋 園右衛門

（不動明王像）成田山

（矜羯羅童子）

（矜羯羅童子）

〔台 石〕

同 弥八

齊藤 伝蔵

同 吉兵衛

同 利八

同 与八

吉岡 藤左衛門

葛貫 清兵衛

堀井 浅治良

同 次右衛門

同 蔵

同 八七

同 金蔵

同 七五良

鈴木 豐蔵

旧西新井村の石仏

(1) 大石橋北側の山王社

山王社は、もとは大石橋の東詰め南側にあったという。山王社の言われは、ここに山王社の使いの猿が刻まれた庚申塔があるからであろう。

1. 三猿庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申一二番)
所在地 西新井・大石橋北側の末田用水そば山王社
石塔型式 駒型(西向き・高さは高)
年 号 延宝六年(一六七八)

〔正面〕

(本表)

延宝六年

奉供養庚申二世安樂所

十月十五日

同行九人

※「三木」は「三ツ木」と読む。

※江戸時代の前期、西新井新田があった。西新井新田は元禄八年(一六九五)に西新井本村から独立して一村をなしたという。これが長島村である。

※祠に納められているこの石塔の近くに、ここの山王神社に関する由来が刻まれた自然石の記念碑「山王神社碑」(明治三十二年十月に建立)がある。次の通りである。

當社ハ延宝六年鈴木竹屋大久保新井両三木両
高橋諸氏ノ健設セシ所ニシテ凡二百二十年
間風伯雨師ノ冒ス所トナリ淋シゲニ樹テリシ
ヲ明治二十八年ニ至リ奇異ナル説ヲナスモノ

大宇西新井
賛成人
立野組中
前合組中
東組中

山王神社碑

アリ曰ク當今火ヲ失スルモノ相尋ク蓋シ謂ナ
キニアラサルヘシ元來本宇西新井ニハ二座ノ
山王アリ西ニアルヲ西山王ト云ヒ東ニアルヲ
東山王ト云フ而シテ西山王ニハ相當ナル祠ア
リテ年々其祭ヲナス東山王ニ至リテハ絶テ此
事アルヲ聞カス是ヲ以テ該神其レ崇ヲナスカ
ト吾等大ニ然リトナシ寄附ヲ有志ニ請ヒ假ニ
祠ヲ健築シ神職ヲシテ之ヲ讓ハシメ且例祭ヲ
起ス爾來神靈著シキモノアルヲ以テ遂ニ今日
ノ如ク參拝スルモノ多キニ至レリ茲ニ當社ノ
概歴ヲ書シテ將來ノ紀念トス

明治三十二年十月

新井勘藏識

大字南萩島

石工榊原時太郎

立 世話人
高橋留太郎
前 新井松之助
東 高橋元吉
同 星野差次郎
同 田村林助
同 高橋秀次郎
東 發起人
高橋孫次郎
同 三ツ木熊太郎
同 新井儀左エ門

※「竹屋」とは西新井一五六の新井家をさす。 ※文中の「萩島」は「萩島」
※大意は次の通りである。

「当社(庚申塔を祀る山王社)は、延宝六年(一六七八)、当地の鈴木・竹屋・大久保・新井・両三ツ木・両高橋の八名の諸氏によって建立されたものである。ご神体の庚申塔が約二百二十年間、雨風にさらされてきた。明治二十八年(一八九五)になっておかしい噂がたちはじめた。すなわち、近頃当集落に火災がしばしばみられるようになったのはいわれのあることであると。もともと西新井には山王社が二座ある。西にあるのを「西山王」、東にあるのを「東山王」と呼んでいる。西山王は、祠に納め毎年祭りとを行っていた。ところが東山王は、放置されていて、このようなことをしていない。そのために祟(たたり)りにより火災が起きたのであろうと思ひ、有志を募って東山王を納める祠を建立し、お払いをしてもらひ、祭りごとを行うことにした。それ以来、大いなる御利益(こりやく)があり、多くの参拝者で賑わうようになった。」

2. 石橋供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・大石橋北側の末田用水そば山王社
石塔型式 駒型(西向き・高さは中)

年 号 明和三年(一七六六)

〔左側面〕

平野□左工門 間宮村 戸塚村 染谷村 大竹村 長島村
左衛門 大崎村 寺山村(片柳) 尾ヶ崎村 神明下村

辻村 □村 山村 同新田 越ヶ谷宿

上野田村 高畑村 行□村 新井村 鉤上村 平間村

玄番村 後谷村 大谷村 下野田村 □蔵村 同新田 笹丸村

〔正面〕

岩附領 岩附領 西新井村

(一仏) 奉供養石橋建立常然無衰無變

十二月月上旬

〔右側面〕

田村氏先祖代 □宝芳春 教入法子 江戸□□□ 田村□平治

一□□ 施深信士 二親善提 同断 住吉丁

智岸信士 □□□ 高橋氏先祖代 同断 □八郎 同断 鹿嶋太兵衛

利天信士 □□□ 一家精靈 同断 神田大和丁 同断 高橋孫十郎

大嘗菓本 念嘗運休 榮嘗得仁 同断 長兵衛 立花や 同 治郎右衛門

3. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申二三一番)

所在地 西新井・大石橋北側の末田用水そば山王社
石塔型式 頭部山状角型(西向き・高さは中)

年 号 文化九年(一八二二)

〔左側面〕

此方 東 こしかや

文化九壬申十一月吉日

か し江戸道

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (二鬼)(三猿)

〔右側面〕

この方のじま道 西新井村

(2) 西教院

本堂前には、西新井村の名主が造立した芭蕉句碑がある。

正面は「みちはた(道端)の 木樨(むくげ)は馬に 食れけり」と

芭蕉の句が刻まれ、裏面には「たいらなり 初曙(はつあけぼの)の

昇汐(のぼるしお) 白扇」と白扇が詠んだ句が刻まれている。

白扇とは、西新井村の名主斎藤徳三郎(元治元年「一八六四」に没)

である。この句碑はもとはこの寺院の墓地にある江戸時代世襲名主を勤

めた斎藤家墓所に建てられていたものであるという。

4. 馬頭観音菩薩像 (『越谷市金石資料集』庚申一三〇番)

所在地 西新井・西教院門前

石塔型式 駒型(西南西向き・高さは高)

年 号 宝暦十三年(一七六三)

〔左側面〕

宝暦十三 癸未 年

〔正面〕

〔台石〕
甲申待同行十三人

おなこ

おはつ

おねでう

おか幼

おあつ

おはな

おとく

おふじ

おかね

おたけ

おせん

おはつ

〔右側面〕

六月吉祥日

※台石にある「甲申待」とは「庚申待(こうしんまち)」のことであろう。越谷の地域では女性でも庚申信仰が行われていたことが、市内の他の地域の庚申塔をみてもわかる。例えば旧三野宮村の一乗院や旧西方村の山野間魔堂墓地、同村の十一面観音堂にある庚申塔がそうである。台石が庚申信仰をあらわしているのに、主尊が馬頭観音となっているのは、台石と馬頭観音像(明王馬口印を結んでいる)が描かれた石塔とは本来別のものだったのであろう。

5・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申一〇四番)

所在地 西新井・西教院門前

石塔型式 駒型(西南西向き・高さは中)

年 号 寛保三年(一七四三)

〔左側面〕

寛保三 癸 未 八月吉日

〔正面〕

〔台石〕
志施入村々
後谷村
野嶋村
鉤上村
同新田村
神明下村
谷中村
越巻村
七左衛門村
長嶋村
尾ヶ崎新田
西新井村
施主本阿(弥心々)

(日月)(青面金剛像)(鬼)(三猿)

※「施入」とは、寺院に財物を寄進すること。

6・不動明王三尊像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西教院門前の祠

石塔型式 浮彫り型(南々東向き・高さは中)

年 号 不詳

〔左側面〕

〔正面〕

(杢羯羅童子)

(不動明王像) 成田山

(制吒迦童子)

〔右側面〕

大久保長兵エ
田村半次郎
同 竹次郎
世 高橋仙次郎
三ツ木七之助
話 田村林助
宇田川長右エ門
人 田村榮蔵
講 中
新井儀左エ門
田村伊右エ門
市川三良兵衛
高橋龜之助
新井栄次
高橋助右エ門
同 又左エ門
田村常右エ門
三木五左エ門
同 治兵衛
田村善右エ門
吉田菊蔵
星野小三郎
三木四良左エ門
同 政吉
高橋小次郎
同 文五郎
三木 益蔵
吉田 岩蔵
高橋 紋蔵
松沢初太郎
田村 清吉
高橋巳之吉
三ツ木榮吉
大久保信次郎
三ツ木要市
高橋周太郎
同 八郎次

7・徳本行者の名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）

石塔型式 頭部山状角型（北東向き・高さは高）

年号 文化十四年（一八一七）

〔左側面〕

小曾川村 石
いよき 石
のめしよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

野島村 石
かや 石
つすや 石
太左門 石
のめしよき 石
いよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

野島村 石
かや 石
つすや 石
太左門 石
のめしよき 石
いよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

文化十四丁 丑年六月吉日

〔正面〕

小曾川村 石
いよき 石
のめしよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

野島村 石
かや 石
つすや 石
太左門 石
のめしよき 石
いよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

野島村 石
かや 石
つすや 石
太左門 石
のめしよき 石
いよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

〔右側面〕

南無阿弥陀仏

徳木（花押）

中

小曾川村 石
いよき 石
のめしよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

野島村 石
かや 石
つすや 石
太左門 石
のめしよき 石
いよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

野島村 石
かや 石
つすや 石
太左門 石
のめしよき 石
いよき 石
もとよき 石
せきん 石
かりきん 石
ミよき 石
ちよき 石
弥五良 石
金左門 石
利介 石
しん 石
林蔵 石
か蔵 石
末田 石
久兵衛 石
宗語 石
むき 石
さき 石
すき 石
ゆき 石
はくめ 石
はるる 石

「台石」

よ	ろ	こゑ	さき	すて	セ八人浅右工門	大道村	伊左工門	喜兵衛	須賀村	ろくき	安左工門	太兵衛	忠蔵	いさが	佐吉	富藏	セ八人源七	砂原村	利右工門	さくん	いくゑ	まつく	「袋山」 台	わゆる	むしめ	はしく	
し	い	ん	んと	で	上郡久里村	下間久里村	大里村	藤藏	平林寺村	さよ	もな	もな	よし	ちや	まさ	きん	仲右工門	ひめつ	はみつ	ひめ	長助	つね	石	はまつ	惣介	梅右工門	ミチよん
のふ	ミよ	ち勇兵衛	り蔵	上郡久里村	三良兵衛	清右工門	大竹村	神明下村	常右工門	弥三良	ちきん	きよ	孫市	後谷村	大沢町	玄番新田	増林村	惣八次	大森村	とら	越巻村	勤兵衛	たもか	ふめん	かきよ	きな々	
釣上弥右工門	後谷村	庄兵衛	平左工門	文八	三ノ宮村	大竹村	彌右工門	神明下村	常右工門	弥三良	ちきん	きよ	孫市	後谷村	大沢町	玄番新田	増林村	惣八次	大森村	とら	越巻村	勤兵衛	たもか	ふめん	かきよ	きな々	

「台石」

涼覺信士
淨覺念清信士
應譽現春信女
應譽泉智信女
終譽臨澄信士

谷中村
戸塚村

（梵字力）奉造立地蔵尊供養
導師鏡誓上人
願主 專称
苦 菩薩 像

とは、宝暦八年（一七五八）の紀伊国（和歌山県）の生まれで、念仏を広め活躍した浄土宗の代表的な念仏僧。各地に独特の書体による名号塔が多く残されている。越谷市内では、林泉寺にある名号塔（増林43番）や天嶽寺にある名号塔（越ヶ谷18番）があげられる。

尚、長島二〇〇ー一の内山家（当時の名主であり、西教院の檀家）に「南無阿弥陀仏 徳本（花押）」と毛筆で書かれた真筆の掛け軸がある。

8. 丸彫り地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）

石塔型式 丸彫り型（北東向き・高さは高）

年号 享保七年（一七二二）

〔左側面〕

〔右側面〕

〔台石〕

「台石」

同名久右衛門
 松永太郎右衛門
 田村五郎右衛門
 笹久保新田
 高橋武兵衛
 柳原
 小間物屋庄五郎
 大道新田
 同所
 川崎四良右衛門
 桜井六郎兵衛
 高井藤兵衛
 同名治左衛門
 会田寛(遊)
 「台石」
 野嶋村
 小曾川村
 砂原村
 荻島村
 神明下村
 谷中村
 戸塚村
 立野村
 藤八屋村
 新兵衛村
 久左衛門
 藤兵衛村
 中野嶋村
 西新井村
 腰巻村
 大間野村
 七左衛門村
 長嶋村
 後谷村

〔右側面〕

松譽運貞信女
心譽涼月信女
念譽淨專信女
弥譽妙專信女

〔台石〕

経譽秋益
悦譽玄秀
一譽不乱
見譽了本

喜右衛門

享保七壬寅年

十月朔日

越ヶ谷新町

石屋

五郎兵衛

9. 祐天上人の名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）

石塔型式 角型（北東向き・高さは高）

年号 享保十八年（一七三三）

〔左側面〕

日照山 江戸京橋柳町本材木町七丁目八丁目

二十五菩薩 西教院 本八町堀壹町目松屋町

市兵衛喜衛門
善六郎弥兵衛

〔正面〕

天下泰平国土安全

武州長嶋村

南無阿弥陀仏 佑天（花押） 十八十八部供養

享保十八癸丑年三月吉日

願主雲心

〔右側面〕

万人講中 御詠歌同行

荻島村 鉤上新田 尾ヶ崎村

大峯講中 御念仏同行

神明村 平間村 小曾川村

大間野村 中野村

横山喜衛門

※祐天上人は、増上寺三十六世の高僧である。越ヶ谷の天嶽寺にも祐天の名号塔（越ヶ谷21番）がある。

10. 名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）

石塔型式 頭部山状角型（北東向き・高さは中）

年号 享保十二年（一七二七）

〔左側面〕

右村々

為善提

一家精舎

〔正面〕

享保十二丁未天

願主

（梵字ナニ）南無阿弥陀仏

日照山

鏡譽代

十二世

白譽専称

〔右側面〕

後谷村

荻島村

高曾根村

七月朔日

神明下村 新井治兵衛

谷中村 会田氏

長嶋村 吉田久兵衛

高橋

同

三木

衛門

松永氏

11. 観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）

石塔型式 舟型（南西向き・高さは高）

年号 寛文六年（一六六六）

〔正面〕

寛文六丙午

妙空六親眷属

道意妙蓮浄音妙察教秀

七世父母

施主

齊藤源内

（観音菩薩像）

称運妙須□道円智妙香

□□法界

像

須故平等利益

欽白

12. 地藏像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）

石塔型式 舟型（南西向き・高さは高）

年号 万治二年（一六五九）

〔正面〕

奉造立所尊像者為庚申供養也□□□當□□所也

(地蔵菩薩像)

□□右門 □□右門
□□右門 八郎右門

于時万治二年癸亥霜月吉日自他回□信心之檀主敬白

哲○信士 忠右衛門
莊兵衛 明右衛門
六兵衛 二右衛門

※錫杖や右腕が本体から離れるようにして立体的に彫られている。
万治二年の干支は己亥である。この石仏には癸亥と誤って刻まれている。

13・阿弥陀如来像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西教院墓地(東側)

石塔型式 舟型(南西向き・高さは高)

年号 寛文三年(一六六三)

〔正面〕

寛文三年 癸卯

奉造立尊像者

市郎右門 勘兵衛 基三

吉兵衛 長□ 長十郎

(阿弥陀如来像)

為庚申待供養也 権十郎 十三郎 八左右門
門十郎 仁兵衛 長右門 施主
十月十五日

14・斎藤家初代の墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西教院墓地

石塔型式 上部駒型様丸型(北東向き・高さは中)

年号 天正十四年(一五八六) ※造立年代は不明

〔正面〕

天正十四年四月廿四日

桃林道見居士

(梵字ナニ)

香誉清安大師

※斎藤家は江戸時代に西新井村の名主を代々勤めた家柄である。この墓塔は後世に造立された斎藤家初代の斎藤若狭守光郷とその妻である。光郷は太田道灌の妹むこ、妻は道灌の妹と伝えられている(斎藤来由)。

15・斎藤徳三郎白扇入道の墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西教院墓地(北西隅)

石塔型式 自然石(北東向き・高さは中)

年号 慶応三年(一八六七)

〔正面〕

慶応二年 寅季五月十六日

永隆院院主 齋藤徳三郎 白扇居士 ※白扇(斎藤徳三郎)

修徳院院主 齋藤徳三郎 妙華大姉 ※白扇の妻

慶応三年 卯年九月十四日

※斎藤家九代目の斎藤徳三郎は、西新井村の名主であるが、俳人としても活躍し、葛飾蕉門、其日庵七世関根列山の高弟子で、俳号を白扇と称した。西教院の境内の鐘樓のそばに、高さ約一〇〇センチ、幅六〇センチ、厚さ一〇〇センチの自然石の句碑がある。もとは、この墓塔の前にたてられていた。表面には、芭蕉の句「みちばたの木 権(むくげ)は馬に 喰(くわ)れけり」が刻まれ、裏面には、白扇の句「たいらなり 初曙(はつしやう)の 昇夕(のぼりゆふ)」が刻まれている。

※境内には、「越谷市金石資料集」の普請三五番に紹介されている大正時代造立の敷石供養塔がある。次のとおりである。

◎敷石供養塔(『越谷市金石資料集』普請三五番)

所在地 西新井・西教院境内

石塔型式 自然石(南西向き・高さは高、一四七センチ)

年号 大正九年(一九二〇)

〔正面〕

(梵字キリク) 敷石供養塔

※裏面には、檀徒惣代や代表者の多くの名前、当時の住職や墓地管理者名が刻まれ、向かって左側端には「大正九年七月建之」と刻まれている。

(3) 田村家(西新井六九〇) 道路反対側

西教院裏の一角(西新井六九〇)の田村家や椿割塚のある西新井六七九の田村家周辺は、かつては斎藤家の屋敷地であったという。その名残として今も椿割塚の石塔が残っている。

16・椿割塚石塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・田村家(西新井六九〇) 道路反対側路傍の祠

石塔型式 隅丸角型(南向き・高さは中)

年号 天正十八年(一五九〇) (実際の造立年月日は不明)

〔正面〕

天正十八 庚寅 太田下野守室

伝説上は太田十郎氏房

※太田下野守とは、

正雲院院殿華嚴周王十八信女

史実は、太田下野守

六月十日

康宗と推定される。

※斎藤家の椿割塚とは、椿が植えられたという斎藤家二代目の母の塚

「椿割塚」には逸話がある。戦国時代の末期、豊臣勢によって岩槻城が攻められたため、城から西新井の斎藤家に落ちのびようとした岩槻城主太田下野守（しもつけのかみ）氏房の妻が、息子五歳の岩月丸（いわつきまる）を残して沼に身投げした。天正十八年のことである。その母の遺骸を埋めた塚には椿の木が植えられたという。岩月丸は、後に斎藤家初代の末の娘を妻として二代目を跡継ぐ。

《椿割塚の伝説》

天正十八年（二五九〇）に豊臣勢は北条氏の本拠である小田原城を攻める。北条氏の支城である岩槻城では、城主太田氏房が小田原城にいての留守中に豊臣勢によって包囲され攻められる。古文書「斎藤来由」（『群書類総合』23冊73巻）によると次の通り。

太田下野守氏房の妻は、西新井の斎藤家に落ちのびようとした五歳の岩月丸を連れて（原文では「抱き」となっている）城から逃れ、野島の地蔵尊（浄山寺）に来て、夫の勝利を祈願した。このとき地蔵の両目から涙が落ちるのを見て、勝利が無いことを悟った。そして妻は、岩月丸を斎藤光郷の子光高に預け、自らは地蔵尊の前の浄庵沼に身投げした。後に、この遺骸は西新井の斎藤家屋敷に流れ着いた。そこで、光高はこの遺骸を葬り、椿の木を印として植えた。それで人々はこの塚を「椿割塚」と呼ぶようになったという。「浄庵沼」とは山門の前にあった池、現在は駐車場。

岩月丸を養育した斎藤光高は、徳川家康に仕えるため斎藤家を出る。岩月丸は光郷の末の娘を妻として斎藤加左衛門尉氏員となり、斎藤家の二代目を継ぐ。初代斎藤若狭守光郷は「斎藤来由」によると、敵の岩槻城攻めの時の天正十八年六月十日に没したことになる。

なお、太田下野守とは、郷土埼玉の歴史の解明に精力的にご尽力なさっている岩井茂氏によると次の通りである。

「太田下野守は、岩槻城主太田資頼の家臣の初代高築次郎左衛門の孫で、初め高築次郎左衛門と称し、その後、太田次郎左衛門と改め、さら

に太田下野守康宗と改め称した。岩槻城の南の押えとして西新井の砦を準備した武將で、天正十三年（一五八五）には、下総関宿（せきやど）城の酒井郭や堀端の作事奉行を恒岡越前守と共に小田原北条家より命じられたり、天正十六年十月十一日には、庄和町（しょうわまち）の金野井（かなのい）本郷の北条家子蔵（ねどし）水損書出し写し奉行人として先の兩人と共に見える人である。太田下野守康宗は、岩槻攻めの際に十八年五月十七日の新曲輪の戦いで討ち死にしたと強く推測され、下野守の妻が六月十日に岩月丸を残して後追い自殺したと思われる。

なお、太田氏房（北条氏政の息子）の妻は小少将（こしょうしょう、太田氏資の娘）と称して、天正十八年五月十八日、岩槻落城後も三の丸に捕らわれの身となり、妻は六月二十四日、夫の氏房へ、岩槻落城から本丸・二の丸の明け渡しや、自らは三の丸に押し込められていることを詳細に報じている。『※なお最近の研究では「北条氏房」と呼ぶべきであるという。』

※岩槻史料第35号掲載の石川芳昭氏によると、太田下野守の妻が入水した時、夫は八王子城（六月二十三日に落城）の支城「滝の城」に居たと推定。また、太田下野守資頼の娘が初代高築次郎左衛門の妻となる。次郎左衛門は、太田姓を賜り、号を下野守とした。その孫の康宗も太田下野守を称す。

※次は、昭和35年4月発行の「越谷市の史蹟と伝説」の六八頁より抜粋。

石神井神社

創立年月日未詳

武蔵風土記稿・社記・古老古碑を総合的に観察するに、天正年間既に御鎮座ありしこと歴然たり。即ち、長禄元年、上杉定正の家臣太田道灌江戸城及び岩槻城築城の後、道灌の後裔岩槻城に居城せり。家臣に太田下野守と称する者あり。寛正三年（一四六二）道灌上洛の砌、高槻次郎左衛門と称し、弓馬の術高く、城内の重臣たりしが、天正十七年（一五八九）、岩槻落城と共に斎藤若狭事、江戸周防事、江戸一楽事、江戸半助事、三ッ木佐渡事、三ッ木縫殿事諸臣等を引連れ当地に土着し、以来名主の職にあり。天正十八年六月病没、墳墓は当字斎藤家邸内にあり。当時田地五反一畝十六歩を寄進し、当地方の鎮護と崇め奉りたり。

尚、当時隣地——現在社務所宅地——に普門院と称し、新和村大字末田金剛院の末寺にして当社の別当寺ありしが、昭和二十九年二月廿日火災を起し、古文書、棟札等普門院内に保存しありたるもの悉く焼失したり。

※岩槻領主、領名主戸長新井儀左エ門家録及社記

(4) 西組自治会館

ここは、西教院の末寺である「正覚庵」と呼ばれた寺院跡地である。

17・名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西組自治会館

石塔型式 空付角柱型（南向き・高さは）

年 号 寛文九年（一六六九）

〔左側面・上〕

〔梵字サ〕 設我得仏 願以此功德 十方衆生 平等施一切 寛文九 己 酉 年 開闢大蓮舎乗譽真

〔梵字サ〕 至心信衆 欲生我國 千日惣廻向有無縁等道師日照山光

〔梵字サ〕 不取正覺 唯除五逆 誹謗正法 同発菩提心 十月十五日 廻向順道舎了応隨

〔梵字サ〕 誹謗正法 往生安楽国 乃至法界 施主

〔左側面・下（「左側面・上」より続く）〕

寛文九 己 酉 年 開闢大蓮舎乗譽真阿訶道上人大和尚 自他

有無縁等道師日照山光明寺西教院願主 傳譽宗心

十月十五日 廻向順道舎了応隨無入上人 大和尚 同 淨圓

〔正面〕 平等利益 敬白

〔梵字サ〕 南 無 阿 弥 陀 仏

〔梵字サ〕 南 無 阿 弥 陀 仏

〔右側面〕

（十七行にわたり膨大な数の法名や俗名などがみっちり刻み込まれて
いるが、摩耗が激しく、解読は困難である。）

〔裏面〕

※裏面も同様に、十七行にわたり膨大な数の法名や俗名などがみっちり刻み込まれていて、解読は困難である。
最下段の向かって左端には、「正覚」というこの寺院名の一部の文字が見られる。
最下段の向かって左側については、部分的に解読をしたので、下記を参照願いたい。

〔裏面の最下段の右側面〕
男女八百八十
五人以上善利
之 生死 之
之 他力 之
之 安楽国 之
下 各 半 之
同 行人 何 之
之 半 之
佛 成就 德 之
正 覚 之 之

18・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西組自治会館

石塔型式 卵型の自然石（南向き・高さは中）

年 号 文化四年（一八〇七）

〔左側面〕

〔台 石〕

文化四 丁 卯 年

正月吉日

〔正面〕

〔台 石〕

西新井村講中

岡本清左エ門

同 弥兵衛

大久保政右エ門

同 安兵衛

高橋 右エ門

田村 佐左エ門

葛 基左エ門

同 藤左エ門

吉田 吉三郎

三木 宗 吉

大久保八左エ門

田村 弥右エ門

同 伊右エ門

庚 申

〔右側面〕

〔台石〕

三木治右エ門

同 李左エ門

同 繁右エ門

吉田寛右エ門

同 清五郎

井ノ元所左エ門

田村善藏

同 治助

高橋又左エ門

同 佐源□(太)

宇田川宇右エ門

高橋清次郎

松永兵衛

同 勇右エ門

三ツ木作右三門

(「右エ門」の誤りか)

19・「馬頭観音」文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西組自治会館

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

年 号 文久三年(一八六三)

〔左側面〕

文久三 癸亥六月廿二日

〔正面〕

(馬頭)

〔馬頭〕 観世立目

※この共同墓地には、次の三基の名号塔がある。

◎名号塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西組自治会館そば墓地(岡本家墓所)

石塔型式 笠付角型(西向き・高さは高、一三四センチ)

年 号 寛保三年(一七四三)

〔正面〕

〔台石〕

(梵字サ)

(梵字サニ)

(梵字サク)

南 無

阿 弥 陀 仏

臨 譽 単 栄 大 徳

寛保三 亥天正月三日

岡 本

家

◎名号塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西組自治会館そば墓地(吉田家墓所)

石塔型式 笠付角型(東向き・高さは中、一二〇センチ)

年 号 不詳

〔正面〕

(梵字サ)

(梵字サニ)

(梵字サク)

南 無 阿 弥 陀 仏

念 譽 生 西 大 徳

迎 譽 心 敬 善 尼

◎名号塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 西新井・西組自治会館そば墓地(大久保家墓所)

石塔型式 笠付角型(東向き・高さは中、九五センチ)

年 号 天和三年(一六八三)

〔正面〕

(梵字サ)

(梵字サニ)

(梵字サク)

南 無 阿 弥 陀 仏

心 譽 淨 円 法 師

逆 修

施 主

天和三天八月十五日

(5) 石神井神社

20・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申三〇二番)

所在地 西新井・石神井神社の北東はずれ

石塔型式 頭部山状角柱型(南西向き・高さは高)

年 号 万延元年(一八二二)

〔左側面〕

万 延 元 年 九 月

〔正面〕

〔台石〕

西新井村講中

(ここに十八人の

村人の名前が

刻まれているが、

摩耗が激しくて

解読不能)

(日月) (青面金剛像) (鬼)(三猿)

〔右側面〕

天 下 泰 平 邨 中 安 全

池 鴉 堂 東 盟 書

21. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二八九番）

所在地 西新井・石神井神社の北東はずれ
石塔型式 駒型（南西向き・高さは中）

年号 嘉永三年（一八五〇）

〔左側面〕

嘉永三 戌 九月吉日

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（二鬼）（三猿）

〔右側面〕

西新井村

講中

22. 「浅間大神」文字塔（『越谷市金石資料集』浅間九番）

所在地 西新井・石神井神社

石塔型式 自然石（南向き・高さは高）

年号 不詳

〔正面〕

浅間大神

23. 「磐長姫命」文字塔（『越谷市金石資料集』その他一九番）

所在地 西新井・石神井神社

石塔型式 自然石（南向き・高さは中）

年号 不詳

〔正面〕

磐長姫命

※磐長姫は、木花之開耶姫の姉で、庶民の間で長寿の神様として信仰されていた。

※「金石資料集」の山王二番の「山王大神」石塔が所在不明である。

「金石資料集」によると、石塔型式は祠型、年号は「寛政3・10・吉」、高さ70センチ、幅30センチ、厚さ20センチであるという。

※なお、この神社に、明治三十年の木箱型の「竜吐水」（りゅうどすい・消火ポンプ）が保管されている。竜吐水に箱に備えてある横木を上下して、箱の中の水を吹き出させる装置である。

（6）西前自治会館

「西前（にしまえ）」とは、西新井前谷（まえや）の略称である。かつては、西新井村の「前谷」と呼ばれていた。

24. 僧侶の墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西前自治会館

石塔型式 笠付角型（西向き・高さは中）

年号 安永二年（一七七三）

〔左側面〕

本蓮社 覚譽 殘 恕和尚

〔正面〕

安永二年正月二日

最蓮社 尊譽 第一阿闍梨和尚

本蓮社 経譽 秋益和尚

享保十一年三月廿三日

〔右側面〕

眼蓮社 天譽 是吟和尚

※ここには、他に六基の六地藏も並べられている。

※西前自治会館の東にある末田用水のさらに東方の路傍に石塔がある。

次のとおりである。

◎「稻荷大明神」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・松永家（西新井六一）の西側路傍

石塔型式 頭部山状角型（南向き・高さは中、61センチ）

年号 昭和十六年（一九四一）

〔左側面〕

昭和十六年初

〔正面〕

稻荷大明神（神）

〔右側面〕

松永松太郎

松永與悦

松永悦蔵

※松永家本家の松永松太郎は、本家（現在の石塔の北側あたりにあった。今は畑地となり屋敷の名残はない）の屋敷神として、分家の松永與悦

(西新井六一)と松永悦蔵(西新井六〇)の協力により造立されたものである。

※鈎上の神明宮の道しるべ

五才川(かつては五才堀、地元ではなまって「こせぼり」と呼んだ)交差点北側二〇メートル先の玉泉寺に通じる十字路の東側角地路傍にある。現在は地面に埋もれて頭部のみしかみられない。

この道しるべは「越谷市金石資料集」の道標3番に紹介されている。幅が二五センチの頭部山状角柱型である。「金石資料集」によると享保九年五月の造立で、高さは百センチとなっている。正面には「従是神明宮之道」、左側面には「是よりしんめい道」と刻まれているという。残念ながら地面に埋もれているのでわからない。

しかし、これと同じ道しるべ(幅が一七・五センチの頭部角柱型)が岩槻市鈎上の神明宮そばの路傍(鈎上二二・三の市川家前)にもある。次のとおりである。

〔左側面〕

是よりしんめい道

〔正面〕

従是神明宮之道

〔右側面〕

享保九年
辰 歲五月吉日

※「従是」は「これより」と読む
※享保九年は、一七二四年

※「神明道」とは神明下村(現在の越谷市神明)へ行く道のことをさすのであろう。「神明宮之道」とは、ここ鈎上の神明神社に通じる道のことである。

参考までに、「神明宮」と刻まれた道しるべが鈎上五五三・二の消防小屋(岩槻市消防団第八分団)前の道路角地にもある。また、さいたま市(旧浦和市)大門の貝殻坂(貝塚の貝殻が出土していた)の鳩ヶ谷街道(御成街道)との合流点にもあったというが、現在見当たらない。

旧長島村の石仏

(1) 長島白田△云館

長島村の鎮守である稻荷社は、もともとは、長島村の北西端の内山家(長島二九〇一)の西側、星野モータースの東隣にあったものである。一時、三ツ木家(長島二一八)のそばに移転(平成十年四月)されたが、現在は長島自治会館(長島一八四)敷地内に安置されている。移転する前の稻荷神社の東隣には、江戸時代まで萬蔵寺という寺院もあった。

1. 六十六部供養塔(『越谷市金石資料集』六十六部九番)

所在地 長島・長島自治会館

石塔型式 隅丸角型(西南西向き・高さは高)

年 号 享保二十年(一七三五)

〔正面〕

〔台石〕

西新井村

願主

平沼村

鈎上新田村

左藤村

荻嶋村

神明下村

〔秋〕

山喜右衛門

同性 善六

藤波利左衛門

〔右側面〕

〔通字〕

享保二十乙卯天

施主 白誓雲心

〔通字〕

奉 造立六十六部納帳為二世安樂也

〔通字〕

九月吉日

武州崎玉郡長嶋村

2. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申六六番)
所在地 長島・長島自治会館
石塔型式 笠付角型(西南西向き・高さは高)
年 号 享保三年(一七一八)

〔左側面〕

(梵字ウン) 奉造立青面金剛二世安樂祈

(所)

〔正面〕

(日月)(青面金剛像)(二鶏)(鬼)(三猿)

〔右側面〕

戊戌 天十一月吉日

武州 長嶋村 ※「昔」は「とき」と読む。

3. 一石六地藏菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 長島・長島自治会館
石塔型式 駒型様特殊型(西南西向き・高さは高)
年 号 文化七年(一八一〇)

〔左側面〕

文化七庚午四月吉日

〔正面〕

(宝珠を錫杖を持つ地藏) (香炉を持つ地藏)
(合掌する地藏) (天蓋を持つ地藏)
(幡を持つ地藏) (両手を合わせる地藏)

〔右側面〕

長嶋村

講中

〔台石〕

内山喜右衛門
内山長松
田小平六
原田小平
藤田兵衛
豊田平八郎
中田三郎
山三右衛門
山小兵衛
山八郎
横山
田村
横山
田村
横山
新井

4. 地藏像付き念仏供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 長島・長島自治会館
石塔型式 舟型(西南西向き・高さは高)
年 号 元禄九年(一六九六)

〔正面〕

奉造立地藏菩薩像二世安楽念仏講中

(梵字力) (地藏菩薩立像)

元禄九丙子 秋十月吉祥日 敬白

※年代不祥の上部のみが残る破損した舟型の石仏がある。「二十三」との文字が刻まれているのがわかる。二十三夜(や)塔と推定できる。全国的にみられる月待(つきまち)塔ではあるが、市内では二十三夜塔は珍しい。ここに描かれている頭部の仏様は合掌していると思われる勢至菩薩である。

※なお、ここには三基の力石がある。

※長嶋村はかつては「西新井新田」と呼ばれ、西新井村に属していた。

※内山家は、勤めた家柄で、敷地の回りにには構え堀がめぐらされていた。内山家の旦那寺は西新井村の西教院である。

(2) 久保家(長島二四)改路傍

5. 馬頭観音菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 長島・久保家(長島二四)そば県道路傍
石塔型式 駒型(南向き・高さは中)
年 号 文政八年(一八二五)

〔左側面〕

文政八酉二月吉日

〔正面〕

講中

(馬頭観音像)

〔右側面〕

崎玉郡 長嶋村

※ここは村境で、江戸時代には馬捨て場であったと思われる。

※また古くは、現在の綾瀬川筋とは別に、「古綾瀬川」が、この村境の近くの、五才川が綾瀬川に流れ注ぐあたりから現在の綾瀬川から離れて、新川町二四三三の斉藤家北側、二四〇〇の島村家北側を通り、現在の新川筋を流れていた。